

平成 14 年度

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士前期課程

修士論文

中学校体育授業におけるバレーボールの単元計画の検討

—運動の学び方の育成に着目して—

健康教育学専攻 荻原 朋子

論文指導教員 浦井 孝夫

合格年月日 平成 15 年 2 月 28 日

主査 浦井孝夫 教授

副査 川合武司 教授

副査 武井子子 教授

# 目 次

## 第1章 序 論

第1節 研究の動機	1
第2節 先行研究の検討	9
第3節 研究の目的	13

## 第2章 本 論

第1節 研究の方法	14
1. 単元計画の文献調査	14
2. 単元計画（案）についてのアンケート調査	16
第2節 文献調査の結果と考察	
1. 各年代における単元計画	19
(1) 1960年代	19
(2) 1970年代	23
(3) 1980年代	27
(4) 1990年代	32
2. 年代別による考察	39
(1) 1960、1970年代	39
(2) 1980、1990年代	41
(3) 過去における単元計画のまとめ	44

3. 運動の学び方の単元計画（案）の作成	47
(1) 単元計画の形式	47
(2) 単元計画の内容	48
(3) 単元計画（案）の提示	50

### 第3節 アンケート調査の結果と考察

1. 結果	52
(1) 単元計画の形式	52
(2) 単元計画の内容	58
2. 考察	64
(1) 単元計画の形式	67
(2) 単元計画の内容	70

## 第3章 結論

第1節 運動の学び方の育成に着目した単元計画モデルの提示	71
第2節 本研究の限界	73
第3節 今後の課題	73
要約	74
謝辞	76
参考文献	77

歐文要約 . . . . . 92

參考資料 (調查票) . . . . . 95

## 第 1 章 序論

### 第 1 節 研究の動機

近年は国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢化社会の到来など、社会の状況が急速に変化し先行き不透明な時代である。このような変化の激しい、かつ厳しい 21 世紀を生きていくためには、心豊かな人間性を持ち、一人一人が個性を生かしてその能力を十分に発揮できる人材を育てる教育のあり方が問われている<sup>50)53)</sup>。つまり、このような社会の中では、従来のように多くの知識や技術を詰め込むだけではなく、実社会に役立つ知識や技術を自ら学び、獲得する能力を育てることが大切であると言われている。そのため、学校教育においては、知識や技術を教え込むだけの授業から、使うための知識や技術を自ら身につける力の育成を図る授業へと移行していく必要があると考える。

平成 8 年 7 月に発表された中央教育審議会第一次答申<sup>62)</sup>をみると、これからの学校教育を進めるにあたって、「ゆとり」の中での「生きる力」の育成を基本とし、各学校が創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び、自ら考える力の育成を図るとともに基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めることが強調されている。この答申では「生きる力」を次の 3 点から説明している。1 つめは「自分で課題を見つけ、自ら

学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」、つまり、主体的課題解決能力であり、2つめは「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」、つまり、心豊かな人間性であり、3つめは「たくましく生きるための健康や体力」、つまり、活気ある健康、体力であるとしている。

また、平成10年7月に発表された教育課程審議会の答申<sup>44)</sup>をみると、学習指導要領の改訂にあたっては、豊かな人間性や社会性を持ち、国際社会を生きる日本人としての自覚を育成すること、自ら学び、自ら考える力を育成することなどをねらいとし、教育課程の編成、授業時数、各教科等の内容の改善方針を示している。体育科及び保健体育科では、明るく豊かで活力ある生活を営む態度の育成を目指し、生涯にわたる豊かなスポーツライフ及び健康の保持増進の基礎を培う観点に立って内容の改善を図ることとしている。

このような教育課程審議会の答申の趣旨を踏まえて、小学校及び中学校学習指導要領については、平成10年12月に改訂が行なわれている<sup>50)</sup>。中学校保健体育科では、①豊かなスポーツライフの基礎を培う観点から運動をより一層選択して履修できるようにし、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにすること、②心と体を一体としてとらえ、体力の向上を図るとともに、自分の体に気付き

体の調子を整えることを重点化することから、体ほぐしにかかわる内容を加えることによって体操領域の名称を変更すること、また、③自己の課題やチームの課題の解決を目指して、練習の仕方や試合の仕方を考えたり工夫したりすることができるようにすることを改訂の要点とし、これに基づいて、目標、内容及び内容の取り扱いの改訂が行なわれている。特に、体育分野では、「生きる力」の育成をねらいとした学習内容として、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、よりよく課題を解決する資質や能力を育成する上から、「運動の学び方」が重視され、それが新たに学習内容として取り入れられている。このため、すべての運動領域における学習内容が、技能の内容、態度の内容及び学び方の内容とされている。

「運動の学び方」とは、中学校及び高等学校学習指導要領の解説書を見ると「①自己に適した目標の設定、②個人や集団の運動課題の把握、③課題を解決するための練習内容の選定、その順序、練習の質や量など合理的な練習計画の作成、④練習、ゲーム、試合、発表会、交流会などにおける成果の確認といった手順を進めることを運動の実践に即して理解できるようにする。」<sup>51)54)</sup>と説明されている。言い換えると、「運動の学び方」とは、運動を覚える手順のことであり、生徒自らが運動の実践を通して習得する内容のことである。その中心的な活動内容を具体的に述べると、金子<sup>33)</sup>は運動学習の過

程について、「ある運動のこつがわかるような気がする段階、できるような気がする段階、できるという段階を経る」としており、運動の学び方の学習は、これらの段階を運動の実践を通して習得することであると考える。

また、「運動の学び方」が体育の学習内容として取り上げられた意義を次のように考える。現行の体育が目指している方向は「生涯スポーツの基礎を培う」ことと、「体づくり運動を学ぶ」ことである(51)54)。これまでの生涯スポーツの基礎を培う学習では、運動の楽しさや喜びを味わわせることに重点がおかれていた。また、体づくり運動を学ぶことについては、これまで体操領域の中で体力を高める運動を重視し、その向上に重点がおかれていた。しかし、今日、運動が好きな子どもと嫌いな子どもの二極化が進んでいる実態を踏まえ、全ての子どもに体を動かす楽しさや心地よさを体験できるよう、自分や仲間の体や心の状態に気付いたり、仲間との交流を深めたりするなどの体ほぐしのための運動が取り入れられることとされている。そこで、新たに「運動の学び方」を学習内容として加えることは、①自分の運動の欲求や必要性を自ら実践活動に生かしやすくなること、②実践活動の成果を目標に照らし合わせて確認しやすくなること、③生涯スポーツの基礎を培うことや体づくり運動を学ぶ際に、自発的に仲間と互いに活動しやすくなること、などといった効



果があると考え。このように、「運動の学び方」を取り入れることは生涯スポーツの基礎づくりと体づくり運動の学習内容がより一層豊かなものになると考えられる。これからの体育授業において、「運動の学び方」を各運動種目の実践を通して生徒が身につけることができるようにするためには、どうしたらよいのかが課題となるであろう。

体育授業を実際に展開するためには、一般に「Plan（計画）－Do（実践）－See（評価）」という過程がとられている。「計画」は授業を行なうに当たって最初に手がけるもので、綿密な計画を立てて授業に臨むことが、生徒に意図的、継続的に学習を促すためには重要であると考えられている。「実践」とは実際の授業場面のことで、「計画」の基に展開されるものであり、また「評価」とは「計画」の基に展開された「実践」に対して、成果の確認を行なうものである。したがって、体育授業においては、「実践」や「評価」の基となる、「計画」を綿密に作成することが不可欠になると考える。「計画」に関しては中学校学習指導要領解説（保健体育編）においても「指導計画の作成」の項目を設けて、保健体育科の目標及び内容の関連から作成上の留意点が示されている。ここで指導計画は「保健体育科の目標を達成するためには、学習指導を計画的に、しかも、効率よく展開する必要がある。そのため、目標や内容を的確に定め、調和

のとれた具体的な指導計画を作成することが大切である。」<sup>52)</sup>と、計画の重要性を示唆している。このように、体育科の目標を達成するために、綿密な「計画」を作成することは重要であると考えられる。

また、「計画」は、体育科の目標と内容を円滑につなぎ、実際の授業を効果的に実践する上で重要な役割を果たしており、その種類としては年間計画、単元計画、単位時間計画の3つがある。年間計画は、地域や学校の実態を考慮し、運動種目を年間に配列したもので、年間の体育授業を効果的に進めるための基本計画である。単元計画は、年間に配列された一つ一つの学習内容を授業としてどのように展開していくかの見通しを立てたもので、毎時間の学習指導に結び付ける「展開計画」としての役割を持っている<sup>61)61)</sup>。1960、1970年代における体力や技能の向上を主なねらいとした教師の指導性が強いとされていた体育授業では、1単位時間のスムーズな展開が求められ、将来を見通すことよりも、一単位時間の中でどのようにして体力や技能の向上を図るかに重点がおかれていたため、体育授業を考える基礎単位が単位時間計画と考えられていた。しかし、1980年代からの体育授業においては、運動の楽しさや喜びに触れることが求められ、運動の特性や生徒の実態、教師の授業への意図などを踏まえて将来を見通した上で授業を展開し、生涯スポーツの基礎を培うことが求められるようになったため、体育授業を考える基礎単

位が単位時間計画から単元計画へと移っていった。そして、「単元計画を見ると授業がわかる」と言われることが一般的となり、現在の授業実践においても単元計画が重要視されている<sup>26)</sup>。また、永島<sup>64)</sup>は「単元における生徒の自発性と教師の指導性は、単元計画から始まり、計画の実施、評価に至る全過程を通して問題にされなくてはならない」とし、単元計画の重要性を示唆している。このようなことから、単元計画は、①年間に配列された一つ一つの学習内容を授業としてどのように展開していくかの見通しを立てたものであること、②毎時間の学習指導に結び付ける「展開計画」としての役割を持ち、次に作成される1単位時間毎の指導案の根拠となり、生徒に単元全体の学習の見通しを持たせるための基本的な資料になること、③教師の授業に対する考え方や生徒の実態に基づいた学習指導のねらいや学習の進め方などを具体的に示すことができること、などといった理由から、単元計画が重要であると考えられる。

以上のことから、本研究では、体育授業において各運動種目の実践を通して「運動の学び方」を生徒が身につけ、生涯スポーツの基礎を培うことと体づくり運動を学習することを目指す体育授業を効果的に展開するためには、どのような単元計画を作成すればよいか検討することとする。特に、中学校の体育授業に着目し、「運動の学び方」を取り入れたバレーボールの単元計画モデルを提示すること

とした。

なお、本研究において単元計画の種目をバレーボールに選定した理由は以下による。

①中学校、高等学校で体育授業の実施率が8割を超え<sup>30)</sup>、大部分の生徒や教師が体験していること、②ネット型ゲームの形態をとり、学習グループが互いに入り混じることがないので、初心者でも攻防を観察、分析しやすく、「運動の学び方」の学習内容が生徒に理解しやすいこと、③6対6で攻防を展開するので、集団的スポーツであるので、各学習グループで課題の解決を目指して、相互に協力し合って練習や作戦を工夫するのに適していること<sup>43)</sup>、④中学校で初めて取り上げられる教材であるので、同一線上に立って「運動の学び方」の学習をはじめることができること、⑤筆者自身が精通している種目であるために、運動の特性やゲームに関する状況判断に関する情報が豊富であることからバレーボールを選定することとする。

## 第 2 節 先行研究の検討

「運動の学び方」の手順やその活動内容、及び単元計画の形式と内容に関する先行研究を検討することとする。

まず、「運動の学び方」に関する先行研究を検討してみると、西嶋ら<sup>69)</sup>は、「中学校体育における主体的問題解決能力育成プロセスの因果構造分析」において、体育授業における主体的課題解決能力の育成に関する研究を行なっている。ここでは、体育授業は他教科に比べ主体的課題解決能力を育成するための諸条件を十分に備えているとされていることから、中学校体育授業における主体的問題解決能力育成プロセスの要因及び構造を、分析、検討し、「体育授業における主体的問題解決能力育成プロセスは、内発的意欲、主体的行動、達成満足、及び自己認識の 4 領域から構成され、体育授業における主体的問題解決能力育成プロセスの循環性及び順序性を明らかにしている。しかし、ここでは体育授業においてどのようにして「運動の学び方」の手順やその活動内容を身につけることができるかという論議には至っていない。

松田ら<sup>47)</sup>は、「学び方に関する基礎的研究－日本学び方研究会の場合－」において、日本学び方研究会の「学び方」について、「学習者の主体性を尊重していること、自ら学ぶ能力を育成しようとしていること、また学習過程や思考過程を重視していること。」と、その

概念を明らかにしている。ここでの「学び方」は、一般的な知識の学習における「学び方」の基本的概念を示すにとどまり、体育授業における「運動の学び方」の手順やその活動内容については触れられていない。

江口<sup>8)</sup>は、「学び方学習の充実を目指して－選択性授業の導入段階として－」において、陸上競技での「運動の学び方」を効果的に身につける指導法についての研究を行っている。ここでは、教師が学習内容を発達段階に応じて整理し、学習過程や学習資料・学習ノートを工夫することにより、運動の学び方を効果的に身につけることができたとしている。しかし、ここでは教師が課題を提示し、生徒に活動の工夫をさせることに焦点が絞られ、生徒が主体的に目標の設定、課題の把握、活動の工夫及び成果の確認の仕方を取り入れた「運動の学び方」の活動内容が明らかにされていない。

次いで、単元計画の形式と内容についての研究を検討してみると、吉田<sup>126)</sup>は、「学習指導要領改訂に伴う武道の単元計画の検討－剣道における『形』指導上の留意点を中心に－」において、武道における単元計画の検討を行なっている。ここでは、剣道を学校体育の教材として取り上げ、平成3年4月施行の学習指導要領が示している時間数に合わせて、『形』の指導法を授業形態別にまとめている。一つめは一斉指導型、二つめはグループ学習型、三つめは男女共習授

業型である。これらの授業形態で指導していくことによって、日本の歴史と伝統のもとに培われてきた武道に求められている技能や態度の内容を理解させ、『形』を積極的に取り扱っていくことが重要であるとしている。ここでは、『形』の技能や態度の習得を単元計画の中心におき、「運動の学び方」を育成するための単元計画の形式と内容については言及されていない。

石川ら<sup>28)</sup>の「小学校体育授業における走り高跳び指導カリキュラムに関する研究」では、子どもの体力の低下などを考慮に入れ、安全性を十分考慮した上で、記録の向上を目指して活動を工夫し、楽しさを十分体験できるような指導計画を作成し、実施している。その際に専門の選手を招き、目の前で跳躍を見る機会を与え、学習カードを活用した結果、記録の向上や走り高跳びを好きになる児童が増えたと述べている。しかし、この指導カリキュラムは、1時限45分の授業を4回行なったものであり、つまり同じような内容の単位時間計画を繰り返し4回行なったものであった。したがって、この指導カリキュラムは、授業の展開計画である単元計画としては不十分であると考えられる。したがって、単元計画の形式と内容については言及されていない。

高橋<sup>113)</sup>や福本<sup>14)</sup>が、単元計画の形式について次のように述べている。「単元計画には、単元目標を技能の向上や技術認識に焦点付け、

そのための学習内容を時系列的に表す指導内容を段階的に配列した単元計画と、学習のねらいの中に個人差を吸収して、個々人の学習課題の相違を認めながら、学習の道筋を枠組みとして示すねらいの発展として考える単元計画が示されている。現在の単元計画は生徒の自主性を学習の中心においているため、後者のものがほとんどである」と述べている。しかし、ここでは「運動の学び方」の育成に着目した単元計画の形式と内容は示されていない。

以上、「運動の学び方」の手順やその活動内容及び、単元計画の形式と内容に関する先行研究の検討を行なってきた。しかしながら、目標の設定、課題の把握、活動の工夫及び成果の確認の仕方、といった「運動の学び方」の手順やその活動内容についての研究は、新しく導入されたものということもあり、まだ研究が進んでいないのが現状である。また、同様に、「運動の学び方」を取り入れた単元計画の形式と内容についての研究についても進んでいない。したがって、「運動の学び方」の育成に着目した単元計画の形式と内容を明らかにした研究は見当たらない。



### 第3節 本研究の目的

本研究では、これまで中学校体育授業で取り上げられているバレーボールの単元計画の形式（項目）と内容（展開）を文献調査により明らかにし、運動の学び方の育成に着目したバレーボール単元計画（案）を作成する。そして、単元計画（案）についての形式と内容の必要性及び適切性を、主としてバレーボールを特技とする保健体育科の教員を対象にアンケート調査を行い、その結果に検討を加え「運動の学び方の育成に着目したバレーボールの単元計画」モデルを提示する。

## 第2章 本論

### 第1節 研究の方法

#### 1. 単元計画の文献調査

##### (1) 調査期日

平成14年4月から7月にかけて文献調査を行なった。

##### (2) 調査対象

まず、戦後における体育科の教育活動がどのように展開されているのかを知るために、1960年代から1990年代におけるバレーボールの単元計画における形式（項目）と内容（展開）がどのように構成されているのかを文献調査によって明らかにすることとした。そこで、バレーボールの単元計画の作成に必要な形式と内容を抽出し、運動の学び方に着目した単元計画に取り入れ、バレーボールの単元計画（案）を作成することとした。

文献調査を行なうにあたって、対象とする文献を、民間雑誌で体育科教育学の専門誌であり、体育授業に関する研究や事例報告が多く記載されている「体育科教育」（大修館書店）、「学校体育」（日本体育社）と、文部省の「中学校保健体育指導書」、「中学校指導書保健体育編」及び、「中学校保健体育指導資料」とした。

1960年代、1970年代、1980年代、1990年代における各文献に記載されているバレーボールの単元計画を対象とした。

### (3) 調査内容と方法

各年代のバレーボールの単元計画を構成している中身、つまり単元計画の形式（項目）と内容（展開）を、上記の文献の中のバレーボールの単元計画から抽出し、考察を行なった。

### (4) 分析方法

#### ア. 考察の視点

体育授業を実施するために、必要な前提知識を記入する項目、つまり形式と、実際に授業を行なう中身を記入する展開、つまり内容を、単元計画を構成する重要な要素と考え、単元計画を形式と内容に分けて考察を行なった。また、考察を行なう際に、形式における単元名や運動の特性等の項目を大項目、大項目中に示されている項目を中項目、中項目の中に示されている項目を小項目とした。さらに、内容における展開の部分の「導入、展開、整理」の欄を学習段階、生徒の活動や教師の行動を示す欄を枠組みとした。

#### イ. 分類の視点

学習指導要領の改訂と共に、単元計画の作成の仕方も変化すると考えることから、戦後の1958年（昭和33年）の中学校学習指導要領改訂以降を文献調査の対象とした。学習指導要領は、10年ごとに改訂されることから、改訂前後約1年を区切りにし、1960年から10年ごとに考察を行なうこととした。

また、高橋、友添、岩田ら<sup>101)102)</sup>が示した目標による体育の性質の年代別分類と、文部科学省による中学校保健体育指導資料を踏まえ、1960、1970年代は基礎的運動能力や運動技能の向上を目指し、体力づくりを重視した体育が行なわれていたこと、また、1980、1990年代は生涯スポーツの基礎を培う観点から、楽しさを重視した体育が行なわれていたことから、「1960、1970年代」と、「1980、1990年代」に分類し、考察を行なった。

## 2. 単元計画（案）についてのアンケート調査

### （1）調査期日

平成14年10月から11月上旬にアンケート調査を行った。

### （2）調査対象

文献調査では単元計画を作成する上での必要な視点が多くあることを明らかにした。そこで明らかになった単元計画を構成している形式と内容を踏まえて作成した運動の学び方に着目した単元計画（案）を提示し、それを構成している形式と内容についての必要性及び適切性について、主としてバレーボール部の顧問をしている保健体育科教員、また、バレーボールを特技としている保健体育科教員128人を対象に質問紙による調査を行なった。

バレーボールを特技とする教員を対象としたのは、バレーボール

をより深く理解しており、バレーボールの授業を得意としていると考え、単元計画の数多くある項目が全ての教員に必要なか、実際現場で単元計画を作成し、運動の学び方を取り入れた授業を展開するために必要な項目を知るためには、バレーボールを特技としている教員に調査することが有効であると考え、先生方に回答していただくことにより、本研究で作成した運動の学び方の育成に着目した単元計画（案）の形式及び内容を問うこととした。

配布数は 128 人、内、回収できたのは 78 人であった。回収率は 60.9%であった。

### （３）調査内容と方法

過去におけるバレーボールの単元計画の検討をふまえて作成した運動の学び方の育成に着目した単元計画（案）を提示し、それを構成している形式（大項目・中項目・小項目）と内容（展開）についての必要性および適切性の調査を郵送による質問紙調査により行なった。

### （４）分析方法

回答を「必要である」「どちらかという必要である」「不要である」の 3 項目を設定し、「必要」「どちらかという必要」を「必要グループ」、「不要」を「不要グループ」に分け、集計を行なった。

「必要グループ」の割合が 50% 以上で、その項目を「必要」とし、

単元計画に取り入れることとした。検定は「必要グループ」と「不要グループ」の比率を出し、等比率の有意差検定を行なった。また、調査結果から「必要」が低い値であった項目を、運動の学び方の趣旨及び、単元計画（案）の形式と内容についての各自由記述を踏まえて再検討し、運動の学び方の育成に着目したバレーボールの単元計画モデルを提示するために必要な形式と内容を選定した。

## 第 2 節 文献調査の結果と考察

### 1. 各年代における単元計画

#### (1) 1960年代における単元計画

##### ア. 単元計画の形式

- ① 「中学校保健体育指導書」：1959年（昭和34年）の「中学校保健体育指導書」では、単元計画の形式については記載されていない（56)55)56）。
- ② 「体育科教育」：1960年代の「体育科教育」では指導案の新しい試みとして、いくつか単元計画の形式について紹介されている（2)3)12)46)46)85)117）。単元計画の形式には、「単元名」、「単元設定の理由」、「教師の目標」、「計画の要点」、「学習の展開」といった項目が見られる。【表1】また、「生活との関連」という項目で、運動種目の特性を生活の中でどのように生かしていくかということが書かれていることから、運動を児童・生徒の生活の一部として位置付けようとしていることがわかる（12)86)117）。1960年代は形式よりも、どのように運動技能を習得させるかに焦点が当てられていたため、単元計画の形式も略式的なものが多く見られる。

表 1 形式・1960年代「体育科教育」

(I) 単元名
(II) 単元設定の理由
・学年発達の立場から
・児童の現状
(III) 生活との関連
(IV) 児童の欲求と教師の目標
(V) 計画の要点
(VI) 学習の展開

- ③ 「学校体育」: 1960年代の「学校体育」では、単元計画の形式について記載は見当たらない<sup>5)6)</sup>。

#### イ. 単元計画の内容

- ① 「中学校保健体育指導書」: 1959年(昭和34年)の「中学校保健体育指導書」では、「第4章 指導計画の作成と学習指導 第1節 指導計画の作成」において、第3学年男子のバレーボールの指導を校内バレーボール大会との関連を持たせた計画例が記載されている。その中で学習活動は技能の習得を中心に展開されている。そして、学習内容については、「技能とルール」、「態度」、「健康と安全」から構成されており<sup>56)</sup>、1958年(昭和33年)の中学校学習指導要領保健体育科のねらいの3点「技能と規則、正しい態度の育成、健康・安全に留意する」と一致する<sup>55)</sup>。「学習段階に応ずる計画」においては、指導の段階が導入→展開→整理とされており、また、生徒の活動内容は基本技能、応用技能、



ゲーム・審判からなっている。これは、同様の技能を全員に習得させるという技能の習得が体育授業の中心であることがわかる。また、ここでは教師が生徒に対して行なう活動は、「備考」とされている<sup>56)</sup>。【表 2】

表 2 内容・1959年(昭和34年)「中学校保健体育指導書」

	学習活動	備考
導入 (1)	グループ構成と役割決 練習計画の立案	教室で行なう グループの能力を同程度にする
展開 (9)	基本技能 応用技能 ゲーム・審判	コート3面、ネット、ボール12個。 グループノート 資料等で正しい技能を理解する
整理 (2)	バレーボール大会 反省と評価	グループ対抗戦を行なう

- ② 「体育科教育」: 1960年代の「体育科教育」では、バレーボールの単元計画はあまり紹介されていないが、他の球技種目での単元計画がいくつか記載されている<sup>12)86)117)</sup>。どの種目においても、グループ学習が多くグループで活動していく中で必要な技能の習得と協力的な態度の育成を目指している。枠組みとしては「生徒の活動」と「指導上の要点」2項目から構成されているものが多く、内容も簡単に示してあるのみである。【表 3】

表 3 内容・1960年代「体育科教育」

	生徒の活動	指導上の要点
はじめ (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ編成、役割決定</li> <li>・練習計画、目標を立てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点をメモ</li> <li>・仲間意識を高める</li> <li>・グループ編成</li> <li>・練習計画に無理のないようにさせる</li> </ul>
なか (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の練習</li> <li>・グループ対抗戦</li> <li>・守備変更と基礎練習</li> <li>・グループリーグ戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単なルールをつくる</li> <li>・技術練習の問題点をはっきりさせる</li> <li>・協力的態度で相互に批判しながら練</li> <li>・観察・自己評価・相互評価の結果を</li> <li>まとめる</li> </ul>
まとめ (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省会を開く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合反省会を開く（反省の記録）</li> </ul>

③ 「学校体育」: 1960年代の「学校体育」では、バレーボールの単元計画の研究は少ないが、1960年に「バレーボールのグループ学習」が紹介されている<sup>5)6)</sup>。これは、技術指導を中心としたグループ学習の指導案であり、配当時間は12時間から15時間を設けて、指導の段階を「導入、目的設定」、「計画」、「練習」、「試合、反省・評価」とし、グループで計画→練習→反省を繰り返しながら技能を高めようとしている。【表4】ここでは、基本技能と応用技能を身につけること、グループの中で互いに協力する態度を育てるということに特に重点が置かれている。また、枠組みとしては、活動内容しか示していない。

表 4 内容・1960年代「学校体育」

	学習内容
はじめ (1~2)	・グループ編成 ・役割決定 ・全体計画、グループ計画
なか (8~10)	・技能の練習やゲームをする
まとめ (3)	・グループ対抗戦の運営 ・反省・評価

## (2) 1970年代における単元計画

### ア. 単元計画の形式

- ① 「中学校指導書保健体育編」：1970年（昭和45年）の「中学校指導書保健体育編」では、単元計画の形式については記載されていない<sup>57)58)</sup>。
- ② 「体育科教育」：1970年代の「体育科教育」では、各項目について、1960年代よりも項目が増え、詳しく記入できるようになっている。【表5】これは、より一層、計画が重視されるようになったためと考える。また、教師が授業の内容をあらかじめ決めて、それを練習させるといった授業形態をとっている<sup>29)32)88)</sup>。

表 5 形式・1970年代「体育科教育」

(I) 単元名
(II) 歴史
(III) ねらい
(IV) 学習内容
(V) 時間計画
(VI) 用具・場所の選定
(VII) 役割の分担
(VIII) 学習計画
(時間・場所・学習内容・学習活動・留意点)

- ③ 「学校体育」: 1970年代の「学校体育」では、単元計画の形式については記載されていない。

#### イ. 単元計画の内容

- ① 「中学校指導書保健体育編」: 1970年(昭和45年)の「中学校指導書保健体育編」は、1959年(昭和34年)の「中学校保健体育指導書」のようにバレーボールの単元計画としては明記されておらず、球技領域の中の指導計画の留意点として示されているのみである<sup>57)</sup>。しかし、「段階別内容の考え方」が示されており、基本となる個人的技能などを基礎になるものから身につけさせるという「初歩的段階」、それを発展させた「進んだ段階」、そして「さらに進んだ段階」といった形で個人的技能、集団的技能、ゲームについての学習内容が記載されている<sup>58)</sup>。【表6】これを見ても活動内容の中心はやはり技能の習得にあると考える。

表 6 内容・1970年（昭和45年）「中学校指導書保健体育編」

初歩的段階	パスとレシーブ サーブ パス攻撃とレシーブ サーブに対するレシーブ 集団的技能を使つてのゲーム
進んだ段階	パスとレシーブ サーブ、トス、スパイク サーブに対するレシーブ 3段攻撃とその防御 攻撃の作戦を立てたゲームと審判の仕方
さらに進んだ段階	パスとレシーブ サーブ、トス、スパイク サーブに対するレシーブ 2段攻撃、3段攻撃とその防御 相手の攻防に応じたゲームと審判

② 「体育科教育」: 1970年代の「体育科教育」では、少しずつ生徒が自主的に学習することに注目がおかれるようになってきている<sup>32)</sup>。これらは、戦前の教師中心の指導から児童・生徒中心の指導へと転換したこと等から、徐々に多く取り上げられるようになったと考えられる。この年代では、体育授業に限らず、クラブ活動や部活動、レクリエーションなど、多くのバレーボールの技術指導や技術構造、評価活動などの研究がされている<sup>67)80)81)120)</sup>。1970年代初期では、グループ学習や自主的な学習を取り入れてはいるが、まだ学習内容がグループ学習の中での技能の習得を中心に据えたものが多く見られる<sup>29)88)</sup>。しかし、1970年代後期になると、生徒の自主性、主体性を伸ばし、全員がバレーボールを楽しむこ

とができるように、ゲームの簡易ルール化やグループ学習の指導がより具体的に計画されている等、詳細に計画を立てて授業を行っている<sup>32)82)111)</sup>。また、この頃から生涯の生活と運動の関係にも徐々に注目されるようになってきている。展開の枠組みとしては、「学習内容」と「学習活動」が分けて記入するようになって<sup>124)</sup>いる。【表 7】

表 7 内容・1970年代「体育科教育」

はじめ (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループニング</li> <li>・ 役割分担</li> <li>・ 学習の見通し</li> <li>・ 練習計画、場所</li> </ul>		
	学習内容	学習活動	指導
なか (2~8)	運動の技術 ルール	グループの活動 マナー、安全、協力	指導上の注意 与えるだけでなく引き出す指導
まとめ (9)	学習の反省、評価、記録、ゲーム、発表会など		

③ 「学校体育」: 1970年代初期の「学校体育」ではバレーボールに関する記載はあまりなく、1970年代中頃から後期にかけてバレーボールの指導に関する研究やバレーボール教材についての研究がされている<sup>27)120)</sup>。ここでは技能の習得だけではなく、バレーボールを仲介として社会的態度を育て、心身発達に寄与するよう指導し、グループを主体として一斉指導することとしている。また、ゲーム的要素を毎時間の指導の中に位置づけるゲームを中心とした授業や、指導者がバレーボールの本質をふまえた計画を

立案し、生徒が理解し課題として受け止め、主体的に活動行なうようにさせる課題解決学習などが取り入れられるようになってくる<sup>123)</sup>。【表 8】

表 8 内容・1970年代「学校体育」

	目標	活動内容	指導の要点
はじめ (1)	・バレーボールの概略と全体計画を知る	・学習の計画を知る ・グループ編成 ・質疑応答	
なか (2～12)	・ゲームの全体的な動き ・協力的な態度 ・守備・攻撃の仕方 ・作戦を立ててゲーム ・審判の仕方	・ビーチボールゲーム ・パスゲーム ・3対3 ・6対6 ・6人制のゲーム	・技能に対しての注意点
まとめ (1)	・反省会を開く	・グループで反省を出し合う	

### (3) 1980年代における単元計画

#### ア. 単元計画の形式

- ① 「中学校指導書保健体育編」：1978年（昭和53年）の「中学校指導書保健体育編」では、単元計画の形式について「第3章 指導計画と学習指導」に年間計画における「単元の配列」とあるだけで詳しく記載されていない<sup>59)</sup>。
- ② 「体育科教育」：1980年代の「体育科教育」では、1980年代初期から「運動の特性」という項目が設置されるようになっている。また、この頃から、学習のねらいを2、3段階にわけ、その学習

過程をあらかじめ予想しておく「学習のねらい」や「学習の道すじ」という項目が取り入れられた単元計画が見られるようになってきている<sup>125)</sup>。【表 9】これは一般に言う「めあて・ねらい学習」のことで、この頃から徐々に取り入れられるようになってきている。

表 9 形式・1980年代 「体育科教育」

(I) 単元名
(II) 運動の特性
(III) 学習のねらいと内容の具体化
(IV) 学習の過程（道すじ）の決定
(V) 時間配分
(VI) 具体的な展開

③ 「学校体育」: 1980年代の「学校体育」では、単元計画の形式の記載はいくつか紹介されている<sup>18)22)24)42)73)114)</sup>。これも「体育科教育」同様で、学習のねらいをいくつかあげ、それに沿って学習過程を踏んでいくという「ねらい学習」が進められている。また、「単元について」という項目において、「運動の特性」、「子供の実態」、「教師の指導観」といった項目をおき、生徒の情報を詳しく収集した上で単元計画を作成している。

表 10 形式・1980年代 「学校体育」

(I) 単元名
(II) 単元について
a 運動の特性
b 子供の実態
c 教師の指導観
(III) 単元の目標
(IV) 学習のねらい
(V) 学習過程
(VI) 授業の展開



## イ. 単元計画の内容

- ① 「中学校指導書保健体育編」：1978年（昭和53年）の「中学校指導書保健体育編」では、単元計画の内容については記載されていなく、球技領域のバレーボールについて、「3 指導計画作成上の留意点」で「単元計画上の配慮」でわずかであるが記載されている。その内容は、「集団的スポーツの単元上の独立と技能とゲームの内容を関連付けて取り扱うようにする」<sup>59)</sup>、という点のみである。【表 11】

表 11 内容・1978年（昭和53年）「中学校保健体育指導書」

ア. 集団的スポーツは、ボールの取り扱いをめぐって集団と集団との間で勝敗を争うという共通の特性を持っているが、その反面、独自のルールや活動形式を持っているので、単元は種目ごとに構成するのが適当であろう。
---

イ. 個人的技能、集団的技能及びゲームの内容については、指導の段階や生徒の技能の程度を考慮して取り扱うことは当然のことであるが、相互に関連づけながら取り扱うことが大切である。
---

- ② 「体育科教育」：1980年代の「体育科教育」では、単元計画に関する詳しい研究はあまりなされていない。1980年代初期には、基本技術を正確に習得させて、応用技術を使って楽しいゲームができるようにすることに重点を置き、体力トレーニングを兼ねてボールに慣れながら運動するという指導を行なっている<sup>127)</sup>。この後の1980年代後期になり、八代の「授業過程を充実させる指導計画の立て方」<sup>125)</sup>では、なか（展開）の段階を2つあるいは3つに区切ることで学習の道すじを明らか

にし、子どもたちの自主的、主体的な活動や内容の工夫がゆとりを持ちながら弾力的に行なわれるようにしている。【表 12】

表 12 内容・1980年代「体育科教育」

	内容と活動	指導	実践の記録
はじめ (1・2)	○初歩的段階 健康診断・体カテスト バレーボールの概要 ボールの扱い方 ボール遊び 組手パスの基本 オーバーハンドパスの基本		(計画のズレ、修正したことなどをメモする)
なか (3~6)	○基本技術 パス・トスの基本 パス・トスを利用したゲータブの基本 レシーブの練習		
(7・8)	パス・トスの基本技術テスト ○応用技術 チーム編成(体格・能力を基本練習(チームごと) スパイクの基本練習 9人制について		
(9・10)	○総合練習 ゲームの運営について 練習試合 総合評価		
まとめ (11~13)	6人制バレーボールの概要 チーム編成 練習試合 総合評価		

③ 「学校体育」: 1980年代の「学校体育」では、さまざまな領域に関する単元計画が記載されるようになっている。なかでも、球技領域の指導計画の研究が多くみられ、バレーボールに関しても多く記載されている。1980年代初期では、まだ生徒の実態に応じた技術の習得に着目しており、段階を踏んでオーバー

ハンドパス、アンダーハンドパス、レシーブ、サーブ、トス、スパイクの個人的技能を中心に練習していく、という単元計画が多く見られる(19)(40)(114)。1980年代中頃から、単元計画の本格的な研究が多くなり、従来の同様の技能を全員に習得させるという技能中心の指導計画から、自分たちで課題を見つけ、バレーボール楽しむことにねらいをおいた指導計画が立てられるようになった。1980年代後期になると、なかの段階を2、3つにわけでねらい決め、そのねらいに沿ったゲームを行なって各グループで評価を行なうなど、ゲームを中心とした指導計画を立て実施するといったものが見られるようになっていく(17)(18)(24)(73)(84)。【表13】

表13 内容・1980年代「学校体育」

	学習内容と活動	ねらい・留意点
はじめ (1)	学習の内容と目標を持たせる グループ編成、役割分担、ルー	①めあてに関する指導 グループと個人の目標をつかませる
なか (2~9)	3時間 ゲーム(問題発見のため) 各グループ別の基礎練習	②活動に関する指導 用途に応じた個人的技能の指導 味方の失敗を許しあい思い切ったプレーを練習させる マナー
	3時間 グループ別の練習 グループワーク	
	3時間 グループ対グループの練習 乱打練習、ゲームの計画、審判	
まとめ (10)	2時間 クラスの競技会	

#### (4) 1990年代における単元計画

##### ア. 単元計画の形式

① 「中学校指導書保健体育編」及び「中学校保健体育指導資料」:

1989年(平成元年)の「中学校指導書保健体育編」では、単元計画に関する記載はなくなり、指導書自体もかなり簡略化されたものになっている<sup>60)</sup>。単元計画の形式については、文部省が1991年(平成3年)に出した「中学校保健体育指導資料」<sup>61)</sup>において一般的な単元計画の形式が記載されている。文部省から出された指導資料にも、「学習のねらいと道すじ」という項目があり、「めあて・ねらい学習」が一般的になってきていることを示している。項目を見ると、従来の単元計画の形式より、「運動の特性」や「学習のねらいと道すじ」、「時間配分と体育施設・用具」など詳細に書かれていることがわかる。特に「運動の特性」は「一般的な特性」と「生徒から見た特性」に分けられている。【表14】

表 14 形式・1991年（平成3年） 「中学校保健体育指導資料」

(I) 単元名
(II) 運動の特性
(1) 一般的な特性
(2) 生徒から見た特性
(III) 学習活動の様相（教師の授業への意図）
(IV) 学習のねらいと道すじ
(1) 学習のねらい
(2) 学習の道すじ
(V) 時間配分と体育施設・用具
(1) 時間配分
(2) 体育施設・用具
(VI) 指導と展開

② 「体育科教育」：1990年代の「体育科教育」では、「学習の道すじ」という項目のなかで、どのように生徒がバレーボールを楽しみ、技能を習得していくかについて、単元計画に明記されるようになった。また、それだけでなく、授業に際して配慮する点も多くあげられ、綿密な授業計画を立てる必要性が高まってきている（49)64)72)87)94)108)122）。【表 15】

表 15 形式・1990年代「体育科教育」

(I) 単元名
(II) 運動の特性
a 一般的特性
b 生徒から見た特性
(III) 生徒の実態
(IV) 学習のねらい
(V) 学習指導の道すじ
(VI) 学習計画

③ 「学校体育」：1990年代の「学校体育」では、「教師の授業への意図」という項目が取り入れられ、教師も子どもたちにどんなことを学んでほしいかを明確にしておくことが重要とされ

ている。また、「学習のねらい」と「学習の道すじ」も分けて書かれるようになり、本格的なねらい学習の位置づけがされるようになっている。「学校体育」では、「運動の特性」の項目を「単元計画」という項目の中に吸収し、その中に「運動の特性」、「子どもからみた運動の特性」、「学級の子どもの実態」、「授業の工夫」を記入するようになっているのが特徴である(39)74)115)118)121)。【表 16】

表 16 形式・1990年代「学校体育」

(I) 単元名
(II) 単元計画
①運動の特性
②こどもからみた運動の特性
③学級の子どもの実態
④授業の工夫
(III) 教師の授業への意図
(IV) 学習のねらいと道すじ
①学習のねらい
②学習の道すじ
(V) 時間計画
(VI) 学習活動と指導

#### イ. 単元計画の内容

- ① 「中学校指導書保健体育編」及び「中学校保健体育指導資料」:  
1989年(平成元年)の「中学校指導書保健体育編」では、バレーボールに関しても、ゲーム、集団的技能、個人的技能の内容が書いてあるのにとどまっている<sup>60)</sup>。【表 17】しかし、文部

省の1991年（平成3年）の「中学校保健体育指導資料」において、単元計画の形式と共に、内容も示されている<sup>61)</sup>。ここでも、「ねらい学習」がすすめられており、ねらいを達成するための学習活動の展開がされている。枠組みの項目に関しては、「ねらいと活動」、「指導」に分けられている。【表18】

表17 内容・1989年（平成元年）「中学校導書保健体育編」

内容	<p>ア. ゲーム ゲームでは技能の程度などに応じて、チームの人数、コートの高さ、ネットの高さ、ルールの扱い等を工夫し、攻防の作戦を立ててゲームができるようにする。 バレーボールは、中学校で初めて取り扱う種目であるので、生徒の技能の程度に応じて指導する内容を決め、高度な技能を求めすぎないようにする。 審判については主審・副審・線審の役割と共に実際の場面に応じた判定やゲームの運営ができるようにする。</p> <p>イ. 集団的技能 ウ. 個人的技能 個人的技能は、集団的技能の中で重点を決めて指導する。</p>
----	--

表18 内容・1991年（平成3年）「中学校保健体育指導資料」

はじめ (導入)	<p>これからの学習のねらいを知って、ねらいの達成に必要な組織や約束、体育施設や用具などの準備をする段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいの理解と学習の進め方の見通しを持つ</li> <li>・グループ編成と役割分担</li> </ul> <p>※誰とどこで、どのようなことを考えて活動していけばよいかを具体的にわかるようにする。</p>	
	ねらいと活動	指導
なか (展開)	<p style="text-align: center;">学習のねらいにむけて、学習の進捗にしたがって自発的・自主的に学習活動を展開する段階</p> <p>『ねらい①とそこでの予想される活動の流れ』 ↓ 『ねらい②と、そこでの予想される活動の流れ』</p> <p style="text-align: center;">それぞれの段階で予想される活動と、そのための具体的な学習形態や学習活動の場の工夫を示す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の持ち方、高め方の指導</li> <li>・課題の解決の仕方</li> </ul> <p style="text-align: center;">クラスの生徒の学習の準備状況や学習の状況に応じて、予想されるつまづきや問題とその解決の仕方や指導の方法を準備して示す</p>
まとめ (整理)	<p style="text-align: center;">学習してきたことを評価し、次からの学習に向けて課題や手がかりを得る段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挑戦の仕方、ゲームや練習の進め方の観察とその指導</li> <li>・どんなことが楽しかったか、うまくできたところはどこか、どんな工夫ができたか</li> </ul> <p>※生徒が自己の力を知り、みんなで運動を楽しむためには、つぎにはどうすればよいかまとめるようにする。</p>	

- ② 「体育科教育」：1990年代の「体育科教育」では、形式よりも単元計画の生かし方や授業研究といった形で紹介されているものが多くみられた。なかでも、高橋健夫らが「バレーボールの授業研究」を行い、「二つの指導法とその成果」、「バレーボール教材はいつとりあげるべきか」、「触球数4回制の有効性について」の3回にわたり、実践報告を行なっている(97)98)99)。
- アンダーハンドパス中心のゲーム型と攻撃コンビネーション中心型の授業モデルを適用し同一教師が指導した所、中学生のような初めてバレーボールを体験するといった場合には、中学2年生から攻撃コンビネーション中心型の授業を適用した方がよりよいということを述べている。この中では、単元計画には深く触れていないが、どちらの単元計画にも「試しのゲーム」、「中間のゲーム」、「リーグ戦」といった形で、単元のはじめ、なか、まとめにそれぞれゲームが取り入れられている。また、攻撃コンビネーション中心型の授業では、グループ学習で授業を進めている。この頃の単元計画の内容には、「ねらい」とそれに応じた「ゲーム」が展開されている。【表19】



表 19 内容・1990年代「体育科教育」

はじめ (1~2)	オリエンテーション グループ編成 グループノートのつけ方 技術オリエンテーション スキルテスト	
なか (3~12)	学習内容	教師の指導
	○試しのゲーム ねらい1 今もっているチームの力でゲームを楽しむ ・グループ練習 ○中間のゲーム ねらい2 自分たちの力の向上に合わせてめあてを決め、その達成を目指す ・グループ練習 ○最終ゲーム	
まとめ (1)	反省会 スキルテスト	

- ③ 「学校体育」：1990年代の「学校体育」では、ねらいを 2、3 段階に分けて学習するという単元計画が多く見られる。ゲームの楽しさの発展が学習過程となり、例えば、ねらい1は各人が今もっている力で楽しむようなねらいで、ねらい2は自分たちのチームの持ち味を見つけ、相手チームに勝つためにねらいを発展させていく、ねらい3は自分たちのチームの力の高まりを確かめ、作戦を生かしたゲームを楽しむといったもので授業を展開している。また、枠組みに関しては、ねらいと活動が一つの項目となり、「学習のねらいと活動」となっている (16)25) 48)74)115)118)121)。【表 20】

表 20 内容・1990年代「学校体育」

はじめ (1)	学習のねらいを理解し、学習全体の見通しを持つ グループ編成 学習の流れや進め方を知る 学習に必要な約束を決める	
なか (2~17)	学習のねらいと活動 ○ねらい1 今もっているチームの力で ゲームを楽しむ ○ねらい2 自分たちのチームの持ち味 を生かしたゲームを楽しむ ○ねらい3 自分たちのチームの作戦を 生かしてゲームを楽しむ	指導 学習の流れやめあてがわかり、主体的 な活動ができているか観察指導する  チームの持ち味を生かした作戦か 作戦を意識してゲームをしているか
まとめ (1)	バレーボールが楽しめたか さらに工夫することができたか	

## 2. 年代別による考察

### (1) 1960、1970年代における単元計画

#### ア. 単元計画の形式

「中学校保健体育指導書」、「中学校指導書保健体育編」共に、単元計画の形式については記載されていない。「体育科教育」では、1960年代と1970年代ではいくつかの違いが見られた。1960年代の単元計画は、1970年代と比較すると略式的といえ、1970年代の単元計画の方が、「ねらい」や「時間計画」といった項目をより多く示している。「学校体育」では、1960、1970年代の単元計画の形式についての記載は見当たらない。

表 21 形式・1960、1970年代

- |           |
|-----------|
| (1) 単元名   |
| (2) 対象    |
| (3) 学習内容  |
| (4) 時間計画  |
| (5) 学習の展開 |

#### イ. 単元計画の内容

- ① 「中学校保健体育指導書」、「中学校指導書保健体育編」: 導入(はじめ) → 展開(なか) → 整理(まとめ) という形で、基本技能 → 応用技能 → ゲーム・審判という学習段階をふんでいる。また、整理(まとめ)の段階でグループ対抗戦を行い、反省と評価を行な

っている。指導と展開の項目は学習活動と備考にとどまっている。

単元の時間数は導入（1時間）、展開（9時間）、整理（2時間）

とされており、全体で12時間を設けている。

- ② 「体育科教育」：はじめ→なか→まとめという学習段階で構成されており、学習の内容は運動の技術や協力的な態度、マナーが記載されている。1960年代では、枠組みが「生徒の活動」と「指導上の要点」だけだったものが1970年代になると、なかの段階だけに「学習内容」、「学習活動」、「指導」と3点に分けられて記載されるようになっていく。これは、より綿密な計画を立て、生徒の技能の習得や活動の様子を把握するためと考える。単元の時間数は、はじめ（1、2時間）、なか（8～10時間）、まとめ（1～3時間）で、全体としては約9～13時間を設けている。
- ③ 「学校体育」：はじめ→なか→まとめという学習段階は同じである。しかし、「学校体育」では1960年代では技能の練習が中心であるが、1970年代になるとなかの段階でゲームを多く取り入れている。また、枠組みにおいても、1960年代では「学習内容」のみであったが、1970年代には「目標」、「活動内容」、「指導の要点」と3項目に増え、各学習段階で習得する技能や態度の目標を決定し、活動するために計画を立てている。単元の時間数は、はじめ（1～2時間）、なか（8～10時間）、まとめ（1～3時間）

で、全体としては約 13 時間を設けている。

表 22 内容・1960、1970 年代

	学習内容・活動	指導
はじめ	グループ編成	
なか	基本技能 応用技能 ゲーム・審判	
まとめ	バレーボール大会 反省と評価	

#### ウ．1960、1970 年代のまとめ

形式に関する記載は、「単元名」、「対象」などが書かれた略式的なものしか見当たらなかった。また、内容は、基本技能→応用技能→ゲームという技能の習得を目的とした学習段階をとっている。これは、技能の習得を重視した体育授業が行なわれていたため、授業展開において体力を基盤とした技能を生徒に習得させようとしていた。そのため、内容においてどのように生徒に体力や技能を身につけさせるかに焦点が当てられていたと考える。

## (2) 1980、1990 年代における単元計画

### ア．単元計画の形式

「中学校指導書保健体育編」には単元計画の形式についての記載はされていないが、1991 年（平成 3 年）の「中学校保健体育指導資

料」において、単元計画の形式についての記載がある。ここでは、新しく、「運動の特性」や「学習のねらいと道すじ」などが記載されるようになってきている。「体育科教育」においても「運動の特性」や「学習のねらいと道すじ」を単元計画の形式に記載するものが増え、生徒がどのように運動の技能を身につけるか、その学習過程を意図的に示すものとして、上記の項目が記載されるようになったと考えられる。「学校体育」においても「運動の特性」や「学習のねらいと道すじ」を単元計画の形式に記載するものが増えている。

表 23 形式・1980、1990 年代

(1) 単元名 (2) 運動の特性 ・一般的な特性 ・生徒から見た特性 (3) 学習活動の様相 (4) 学習のねらいと道すじ (5) 時間配分と体育施設・用具 (6) 指導と展開
--

#### イ. 単元計画の内容

- ① 「中学校指導書保健体育編」及び「中学校指導書保健体育編」:  
 内容についての記載はなかったが、「中学校保健体育指導資料」  
 で一般的な単元計画の形式が記載されている。ここでは、はじめ  
 (導入) → なか(展開) → まとめ(整理) という学習段階は従来  
 と変わらない。しかし、学習の内容において、めあてやねらいを

おき、それに沿って学習を進めていくという「めあて・ねらい学習」を行なっている。枠組みについては、なかの段階で「ねらいと活動」、「指導」を記載し、ねらいに沿って予想される活動の流れを記入する形になっている。単元の時間数は特に記載されていない。

② 「体育科教育」: 1980年代初期は、まだ技能の練習が中心であったが、1980年代になると、試しのゲーム、中間のゲーム、最終のゲームといった形で、その都度、ねらいを決めて学習している。枠組みにおいては、なかの段階で「学習内容」と「教師の指導」の2つで構成されている。単元の時間数は、はじめ(1~2時間)、なか(10~12時間)、まとめ(1~3時間)で全体としては13時間を設けている。

③ 「学校体育」: 1980年代ではグループ単位での学習が多くみられたが、その内容はやはり基本技能→応用技能→ゲームといった技能の習得のための練習が中心であったが、1980年代に入るとねらいを3段階に分けた学習をするようになっていく。枠組みについては、なかの段階で「学習のねらいと活動」、「指導」の2つで構成している。単元の時間数は、はじめ(1時間)、なか(9~17時間)、まとめ(1~2時間)で、全体としては12時間又は18時間を設けている。

表 24 内容・1980、1990年代

はじめ	オリエンテーション グループ編成	
なか	ねらいと活動	指導
	ねらい①	
	ねらい②	
まとめ	反省と評価	

### ウ. 1980、1990年代のまとめ

少しずつ生徒主体の体育授業に変化して来た背景から、形式も生徒の実態をより詳細に示すなど、記入する項目が増えている。内容に関しては、ルールの工夫や、練習の仕方を工夫して全員が楽しめるような体育授業の内容構成をとっていたため、運動の楽しさ体験を重視している単元計画が作成されている。また、1990年代に入ると形式において新しく学習のねらいと道すじをおき、自主的に学習活動ができるようにする内容構成が主流になっている。また、生徒から見た特性を取り入れ、より生徒主体の授業展開しようとしていたことがわかる。内容についても、生徒の課題に基づいてねらい学習を行なっている。

### (3) 過去における単元計画のまとめ

#### ア. 単元計画の形式

以上のことから、単元計画を構成している項目は、以下のよう



整理することができる。

(ア) 大項目

- ① 「単元名」
- ② 「歴史」「単元設定の理由」「単元について」
- ③ 「生活との関連」「運動の特性」「児童の欲求と教師の目標」  
「生徒の実態」「学習活動の様相（教師の授業への意図）」
- ④ 「単元の目標」「ねらい」「学習のねらいと内容の具体化」「学習のねらいと道すじ」「学習内容」「学習過程（道すじ）の決定」「計画の要点」
- ⑤ 「時間計画」「時間配分」「用具・場所の選定」「時間配分と体育施設・用具」「役割の分担」
- ⑥ 「学習の展開」「学習計画」「具体的な展開」「授業の展開」「指導と展開」

(イ) 中項目

- ① 単元設定の理由－「学年発達の立場から」「児童の現状」
- ② 単元について－「運動の特性」「子供の実態」「教師の指導観」
- ③ 運動の特性－「一般的な特性」「生徒から見た特性」
- ④ 学習のねらいと道すじ－「学習のねらい」「学習の道すじ」
- ⑤ 時間配分と体育施設・用具－「時間配分」「体育施設・用具」
- ⑥ 単元計画－「運動の特性」「子どもから見た運動の特性」「学

級の子供の実態」「授業の工夫」

(ウ) 小項目

- ① 小項目の記載はない。

イ. 単元計画の内容について

また、考察の結果から、単元計画の内容つまり「展開」を構成している項目は、以下のように整理することができる。

(ア) 枠組み

- ① 学習段階関連－「学習段階」
- ② 生徒の活動内容関連－「目標」「学習内容」「学習のねらいと内容」「学習活動」「活動内容」「内容と活動」
- ③ 教師の指導関連－「備考」「指導」「指導の要点」「教師の指導」「ねらい・留意点」「実践の記録」

以上の結果から、単元計画の形式と内容は、高橋、友添、岩田らが作成した体育の目標の年代別の分類と「中学校保健体育指導資料」に基づいて構成されていることがわかった。

### 3. 運動の学び方の単元計画（案）の作成

上記の文献調査から明らかになった単元計画を構成している形式と内容を踏まえて、平成 14 年度より実施されている「中学校学習指導要領」に即して、保健体育科の新しい学習内容として「運動の学び方の」に着目した単元計画（案）を作成する。この運動の学び方の育成に着目した単元計画（案）では、特に以下の点を考慮した。

#### （1）単元計画の形式

##### ア. 大項目

- ① 「単元名」は、単元における運動種目を記入する。
- ② 「運動の特性」は、単元における運動種目の特性を記入する。
- ③ 「生徒の実態」は、対象クラスの数や雰囲気、スポーツテストの結果などから生徒の実態を記入する。
- ④ 「教師の授業への意図」は、運動の学び方を習得するための学習の手順を内容とする。
- ⑤ 「単元の目標」は、学習の方向を明確にし、運動の学び方を習得させることとする。
- ⑥ 「学習の手順」は、運動の学び方を習得するための学習の手順である、目標の設定、課題の把握、活動の工夫、成果の確認を内容とする。

⑦ 「時間配分と体育施設・用具」は、単元の時間配分及び単元に必要な体育施設・用具を記入する。

⑧ 「展開（学習活動と教師の支援）」は、単元における授業全体の流れを記入する。

#### イ．中項目

① 運動の特性を「一般的な特性」及び「生徒から見た特性」の2項目とする。

② 時間配分と体育施設・用具を「時間配分」及び「体育施設・用具」の2項目とする。

#### ウ．小項目

① 一般的な特性、生徒から見た特性を「構造的特性」、「機能的特性」及び「効果的特性」の3項目とする。

### (2) 単元計画の内容

① 枠組みは、運動の学び方の育成に着目した単元計画作成の観点から「学習段階」、「学習の手順と活動内容」及び「教師の支援」の3つとする。

② 「学習の手順と活動内容」は、目標の設定の仕方、課題の把握の仕方、活動の工夫の仕方、成果の確認の仕方を内容とする。

③ 「教師の支援」は、生徒が自ら考えて行動するという観点から、

目標の設定の仕方の支援、課題の把握の仕方の支援、活動の工夫の仕方の支援、成果の確認の仕方の支援とする。

- ④ 「評価」は、生徒の自己評価を取り入れ、生徒自身のがんばりを評価するとともに、学び方の評価項目を取り入れ、学び方の評価を重視する。

### (3) 単元計画(案)の提示

以下に運動の学び方の育成に着目したバレーボール単元計画(案)を提示する。

#### 運動の学び方の育成に着目したバレーボール単元計画(案)

1. 単元名 バレーボール
2. 運動の特性
  - (1) 一般的な特性:
    - ① 構造的特性(個人的技能、集団的技能、ゲームの型の特性)
    - ② 機能的特性(楽しさや喜びの体験と競争場面、達成場面、克服場面との関連)
    - ③ 効果的的特性(体力の向上や社会的態度の育成への効果)
  - (2) 生徒から見た特性:
    - ① 構造的特性(どんな個人的技能や集団的技能がゲームを行なうために必要なのか)
    - ② 機能的特性(どんな時に楽しさやつらさを感じるのか)
    - ③ 効果的機能(どんな体力や社会的態度が必要なのか)
3. 生徒の実態  
(対象クラスの数や雰囲気、スポーツテストの結果などから生徒の実態をつかむ)
4. 教師の授業への意図  
(バレーボールの特性を生かしながら運動の学び方を習得させる)
5. 単元の目標  
(バレーボールの練習やゲームの仕方を工夫しながら運動の学び方を習得する)
6. 学習の手順  
(1目標の設定、2課題の把握、3活動の工夫、4成果の確認という手順で行なう)
7. 時間配分と体育施設・用具
  - (1) 時間配分  
(はじめ、なか、まとめの時間数と1時間ごとの授業の流れ)

時分	はじめ(1~2)	なか(3~9)	(10~14)	まとめ(15)
0	オリエンテーション ・目標の設定	準備運動		・成果の再確認
10		・課題の把握 ・活動の工夫 ・成果の確認	・課題の再把握 ・活動の再工夫	
20	試しのゲーム			生徒の自己評価 教師の評価
30				
40		中間のゲーム	最終のゲーム	
50		整理運動と本時のまとめ		

- (2) 体育施設・用具  
(コート、ボールの数等の必要な施設・用具)

8. 展開（学習活動と教師の支援）

学習段階	学習の手順と活動内容	教師の支援
はじめ (1, 2)	<p>オリエンテーション 単元の目標を理解し、学習の手順についての見通しを持つ。 グループ編成と役割分担を決める。 1 目標の設定 各グループでチームや個人の目標を話し合っ て決める。 * 試しのゲームを行う。 今持っている力でゲームを行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの仕方を支援する。</li> <li>・目標の設定の仕方を支援する。</li> </ul>
なか (3, 4)	<p>2-① 課題の把握 目標を達成するための課題をつかむ。 3-① 活動の工夫 グループごとの課題に合わせて練習の仕方を工夫しながら個人的技能や集団的技能を習得する。 * 中間のゲームを行う。 ルール等を工夫し、作戦を立ててゲームを行なう。 4-① 成果の確認 各グループで課題、活動に対しての反省と成果の確認を行う。 2-② 課題の再把握 目標を達成するための課題を再度つかむ。 3-② 活動の再工夫 練習の仕方を再度工夫しながら不十分な個人的技能や集団的技能を習得する。 * 最終のゲームを行う。 作戦を生かした攻防を展開してゲームを行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の把握の仕方を支援する。</li> <li>・活動の工夫の仕方を支援する。</li> <li>・成果の確認の仕方を支援する。</li> <li>・課題の再把握の仕方を支援する。</li> <li>・活動の再工夫の仕方を支援する。</li> </ul>
まとめ (1, 5)	<p>4-② 成果の確認 各グループでチームや個人の目標、課題、活動に対しての反省と成果の確認を行なう。 評価 生徒の自己評価 ・学習の手順を身につけることができたか（学び方） ・練習やゲームの仕方を工夫することができたか（学び方） ・互いに協力し楽しく意欲的に学習ができたか（関心・意欲・態度） ・作戦を生かしたゲームができたか（技能）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の再確認の仕方を支援する。</li> <li>・生徒の自己評価の仕方を支援する。</li> <li>教師の評価 ・学習の手順を身につけることができたか（学び方） ・練習やゲームの仕方を工夫することができたか（学び方） ・互いに協力し楽しく意欲的に学習ができたか（関心・意欲・態度） ・作戦を生かしたゲームができたか（技能）</li> </ul>

※この学習指導案は、各学年3クラス（学校全体で9クラス）の中学校で、保健体育科の教師が3名の学校規模を想定して作成した。また、この授業は2年生の2クラスの女子生徒40名に対して1名の教師で授業を行うものとする。

### 第3節 アンケート調査の結果と考察

#### 1. 結果

##### (1) 単元計画の形式

##### ア. 大項目

表 25 アンケート結果・形式（大項目）

大項目	必要グループ			不要グループ	合計
	必要	どちらかという必要	小計	不要	
(1)単元名	76(97.4%)	2(2.6%)	78(100%)	0(0.0%)	78**
(2)運動の特性	63(80.8%)	12(15.4%)	75(96.2%)	3(3.8%)	78**
(3)生徒の実態	69(88.5%)	8(10.3%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
(4)教師の授業への意図	62(79.5%)	12(15.4%)	74(94.9%)	4(5.1%)	78**
(5)単元の目標	74(94.9%)	3(3.8%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
(6)学習の手順	52(66.7%)	13(16.7%)	65(83.3%)	13(16.7%)	78**
(7)時間配分と体育施設・用具	57(73.1%)	18(23.1%)	75(96.2%)	3(3.8%)	78**
(8)展開(学習活動と教師の支援)	71(92.2%)	6(7.8%)	77(100%)	0(0.0%)	77**

単位:人数 \*\*: $p<0.01$ (等比率の差の検定)

大項目については、「単元名」、「運動の特性」、「生徒の実態」、「教師の授業への意図」、「単元の目標」、「学習の手順」、「時間配分と体育施設・用具」、「展開（学習活動と教師の支援）」の8項目について、「必要」、「どちらかという必要」、「不要」の3項目で回答してもらった。その結果、ほとんどの項目において「必要」、「どちらかという必要」という回答が得られた。しかし、「学習の手順」及び「時間配分と体育施設・用具」については、「どちらかという必要」と回答した人がそれぞれ16.7%、23.1%であった。「学習の手



順」については、「不要」と答えた人が 16.7%と他の項目と比べると多い。また、「必要グループ」「不要グループ」に分けて、大項目の比率の有意差検定を行なったところ、どの項目においても 1%水準で有意な差が見られた。

### イ. 中項目

表 26 アンケート結果・形式(中項目)

中項目	必要グループ			不要グループ	合計
	必要	どちらかという と必要	小計	不要	
運動の特性について					
(9)一般的な特性	48(61.5%)	21(26.9%)	69(88.5%)	9(11.5%)	78**
(10)生徒から見た特性	51(65.4%)	20(25.6%)	71(91.0%)	7(9.0%)	78**
時間配分と体育施設・用具					
(11)時間配分	63(80.8%)	14(17.9%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
(12)体育施設・用具	29(37.2%)	29(37.2%)	58(74.4%)	20(25.6%)	78**

単位:人数 \*\*: $p<0.01$ (等比率の差の検定)

中項目については、運動の特性について「一般的な特性」と「生徒から見た特性」、「時間配分と体育施設・用具について」、「時間配分」と「体育施設・用具」の 4 項目を調査したところ、「一般的な特性」、「生徒から見た特性」、「時間配分」については「必要」「どちらかという必要」と答えた人がそれぞれ 88.5%、91.0%、98.7%であった。「体育施設・用具」に関しては「必要」「どちらかという必要」と答えた人が 74.4%で他の項目と比較すると必要性が低い

という結果が得られた。また、「必要グループ」、「不要グループ」に分けて、中項目の比率の有意差検定を行なったところ、どの項目においても1%水準で有意な差が見られた。

## ウ. 小項目

### (ア) 運動の特性

表 27 アンケート結果・形式(小項目)

小項目 (運動の特性)	必要グループ			不要グループ	合計
	必要	どちらかという と必要	小計	不要	
一般的な特性について					
(13)構造的特性	33(42.3%)	29(37.2%)	62(79.5%)	16(20.5%)	78**
(14)機能的特性	37(47.4%)	29(37.2%)	66(84.6%)	12(15.4%)	78**
(15)効果的的特性	39(50.0%)	29(37.2%)	68(87.2%)	10(12.8%)	78**
生徒から見た特性について					
(16)構造的特性	36(46.2%)	28(35.9%)	64(82.1%)	14(17.9%)	78**
(17)機能的特性	42(53.8%)	24(30.8%)	66(84.2%)	12(15.4%)	78**
(18)効果的的特性	43(55.1%)	21(26.9%)	64(82.1%)	14(17.9%)	78**

単位:人数 \*\*: $p<0.01$ (等比率の差の検定)

小項目については、「一般的な特性」及び「生徒から見た特性」について「構造的特性」、「機能的特性」、「効果的的特性」の6項目を調査したところ、各項目について「必要」もしくは「どちらかという  
と必要」と答えた人はそれぞれ79.5%、84.6%、87.2%、82.1%、84.2%、82.1%であった。しかし、表27をみると、「必要」と「どちらかという  
と必要」の回答の差があまり見られないのがわかる。

一方で、全体を通して「不要」と答えた人が 12.8% から 20.5% であったのは検討の余地があると考えられる。また、「必要グループ」、「不要グループ」に分けて、小項目における運動の特性についての比率の有意差検定を行なったところ、どの項目においても 1% 水準で有意な差が見られた。

### (イ) 時間配分

表 28 アンケート結果・形式(時間配分)

小項目 (時間配分について)	適切グループ			不適グループ	合計
	適切	どちらかという と適切	小計	不適	
(19)学習時間10時間	11(14.9%)	34(45.9%)	45(60.8%)	29(39.2%)	74*
(20)学習時間15時間	44(57.9%)	27(35.5%)	71(93.4%)	5(6.6%)	76**
(21)学習時間20時間	9(12.0%)	21(28.0%)	30(40.0%)	45(60.0%)	75

単位:人数 \*\*: $p<0.01$  \*: $p<0.05$  (等比率の差の検定)

時間配分については、学習時間をどの程度の時間数で設定するのがよいのかを調査するため、10時間、15時間、20時間と3項目を設け、その適切性について回答してもらった。その結果、単元の時間数を10時間が「適切」もしくは「どちらかという適切」と答えた人は60.8%、15時間と答えた人は93.4%、20時間と答えた人は40.0%であった。また、「適切グループ」、「不適切グループ」に分けて、小項目における時間配分についての比率の有意差検定を行なったところ、学習時間を10時間とするものに5%水準で有意な差が見られ、学習時間を15時間とするのが1%水準で有意な差が見

られた。しかし、学習時間を 20 時間とするものには有意な差は見られなかった。

(ウ)「はじめ」「まとめ」の時間数

表 29 アンケート結果・形式(はじめ/まとめの時間数)

小項目 (はじめ/まとめの時間数)	0時間	1時間	2時間	3時間	合計
(22)「はじめ」の時間数	0(0.0%)	36(49.3%)	32(43.8%)	5(6.8%)	73**
(23)「まとめ」の時間数	0(0.0%)	54(72%)	16(21.3%)	5(6.7%)	75**

単位:人数 \*\*: $p < 0.01$ (等比率の差の検定)

はじめとまとめの時間数については、0時間、1時間、2時間、3時間の4項目の中から最も適切だと考えるものを選んで答えてもらった。その結果、「はじめ」の時間数に関しては1時間もしくは2時間と答えた人がそれぞれ49.3%、43.8%であった。また、「まとめ」の時間数は1時間と答えた人が72.0%であった。この質問項目では、1時間と2時間のどちらともいえないと答えた人が何人かおり、回答人数は全体数79人に対して、73人、75人と他の質問に比べると少ない。また、0時間と答えた人がいなかったため、0時間を省き、残りの1時間、2時間、3時間の3項目で各時間数の比率の有意差検定を行なったところ、「はじめ」および「まとめ」の時間数の項目において1%水準で有意な差が見られた。

## エ. 形式についての自由記述

形式についての自由記述は以下の通りである。

表 30 形式についての自由記述

項目	自由記述
大項目	2. 運動の特性 (1)一般的な特性 (2)生徒から見た特性 (3)学び方の状況 (4)技能の状況 3. 指導観 (教師の授業への意図する内容を入れる) 4. 学習のねらいと道すじ (1)ねらい (2)道すじ ねらい1 ねらい2 としている。 2. 運動の特性に生徒の実態を入れてもよいのでは。 教師の授業への意図は指導観と記述している。 6. 7はまとめて学習指導計画として記載した方がよい。(全体の流れがわかる)
中項目	特に無し
小項目	特に無し
時間配分と学習時間	はじめ(1~2)、なか(3~9)、まとめ(10~15)という形式で現場で行なっている。 学習時間については、中学生女子がバレーボールを、ラリーを続けて楽しんで授業をできるようになるまでに相当の時間が必要。バスケットボールやサッカーと比べて上手になるまでの時間を確保する必要がある。 10、15、20時間と様々な計画はあるが、その時間数と学年の生徒の実態により中心的に学習するものが変化してよいと思う。
評価	評価基準も必要。評価計画を付け加える。 単元の目標は評価の項目に応じて、関心・意欲・思考判断・技能・知識理解の4つの点から目標を立てる。 評価の項目が必要。特に観点別評価についてどのような場面でどのように評価するかを明記しておく必要がある。
形式	形式に関してはやろうとしていることは理解できるが、2年生女子40名で計画を立てていることがはっきりしている。この資料のほか具体的に文や表現をいれたものがあるといふ。 指導案の形式については各学校によって違うが、おおむねこの形式でよいと思う。各学校での研究テーマとの関連が必要。 形式については適当と思われる。 形式が全く違う。指導計画については「はじめ、なか、まとめ」ではなく、ねらい1、ねらい2、ねらい3という形で計画する。「はじめ、なか、まとめ」という流れは今使っていない。これは展開で使用する。(過程) このような形式は地域や学校によって多くの形式がある。ただし、中学校の教員がこのような指導案を書くのは多くて年に1~3回。 形式については学校や地域によって違いがあり一般的には言えない。
展開	展開は単元の全体の流れ(単元の計画)であって、一時間々の展開の具体例がないとよりしつかりと内容をつかみにくい。 展開については学校における生徒の実態を考慮に入れて考える必要があるかと思う。(内容の検討) この指導案の展開では実際にどのように授業を展開していくのかが見えてこない。この指導案は単元計画という大きなまとまりの指導案ということでとらえているが、1時間1時間の指導案と違うのはわかるが、この展開のところはもう少しわかりやすく書き方を工夫した方がいいのではないかと。 展開がわかりにくい。もう少し実証するときにその手立てが思い浮かぶものにしてほしい。 「3年間」を見通した計画を考えた上で「単元計画」の検討とすべきではないか。 時間配分の1単位時間内の内容がおおざっぱ過ぎて、考えている基準がよくわからない。
その他	学び方の育成に着目した場合、学習カードや教具の工夫は不可欠になってくると思われるが、そのことは今回の指導案のどこに書かれることになるのか。 「はじめ」の「試しのゲーム」は経験がない場合は、用具(ボールの質)やルールを工夫しないと、バレーボールがつまらなくなってしまう恐れがあると思う。 1, 2, 3年とも同じ形式なのか。基礎、基本の練習は行なわないのか。1年生からいきなり課題学習なのか。(もちろんパス練習の中にも課題はあるが) ボールやコート等各学年で工夫はされないのか。

## (2) 単元計画の内容

### ア. 枠組みと学習段階

表 31 アンケート結果・内容(枠組みと学習段階について)

展開(枠組みと学習段階)	必要グループ			不要グループ	合計
	必要	どちらかという必要	小計	不要	
枠組みについて					
(24)学習段階	56(72.2%)	18(23.4%)	74(96.1%)	3(3.9%)	77**
(25)学習の手順と活動内容	69(89.6%)	7(9.1%)	76(98.7%)	1(1.3%)	77**
(26)教師の支援	62(79.5%)	14(17.9%)	76(97.4%)	2(2.6%)	78**
学習段階について					
(27)「はじめ」「なか」「まとめ」	54(69.2%)	20(25.6%)	74(94.9%)	4(5.1%)	78**

単位:人数 \*\*: $p<0.01$ (等比率の差の検定)

枠組みと学習段階については、まず、枠組みについて、「学習段階」、  
「学習の手順と活動内容」、「教師の支援」の3項目及び、学習段階  
について「はじめ」、「なか」、「まとめ」の必要性を調査したところ、  
「必要グループ」、「不要グループ」の比率の有意差検定では、全ての  
項目において1%水準で有意な差が見られた。しかし、枠組みに  
おける学習段階と学習段階の「はじめ」「なか」「まとめ」の必要性  
に関しては、「どちらかという必要」と答えた人が25.6%であっ  
た。

イ. 学習の手順と活動内容

表 32 アンケート結果・内容 (学習の手順と活動内容)

展開 (学習の手順と活動内容)	必要グループ			不要 グループ	合計
	必要	どちらかとい うと必要	小計	不要	
・はじめの段階					
(28)オリエンテーション	73(93.6%)	4(5.1%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
(29)単元の目標の理解、見通し	63(81.8%)	14(18.2%)	77(100%)	0(0.0%)	77**
(30)グループ編成と役割分担	67(85.9%)	10(12.8%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
(31)目標の設定	64(83.1%)	12(15.6%)	76(98.7%)	1(1.3%)	77**
(32)試しのゲーム	47(61.0%)	26(33.8%)	73(94.8%)	4(5.2%)	77**
・なかの段階					
(33)課題の把握	68(87.2%)	9(11.5%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
(34)活動の工夫	69(88.5%)	9(11.5%)	78(100%)	0(0.0%)	78**
(35)中間ゲーム	44(57.2%)	26(33.8%)	70(90.9%)	7(9.1%)	77**
(36)成果の確認	59(77.6%)	16(21.1%)	75(98.7%)	1(1.3%)	76**
(37)課題の再把握	43(57.3%)	29(38.7%)	72(96.0%)	3(4.0%)	75**
(38)活動の再工夫	45(59.2%)	29(38.2%)	74(97.4%)	2(2.6%)	76**
(39)最終のゲーム	51(66.2%)	21(27.3%)	72(93.5%)	5(6.5%)	77**
・まとめの段階					
(40)成果の再確認	49(63.6%)	27(35.1%)	76(98.7%)	1(1.3%)	77**

単位:人数 \*\*: $p<0.01$ (等比率の差の検定)

「学習の手順と活動内容」については、展開の中で授業の流れを示し、その項目の必要性について調査したところ、「必要グループ」、「不要グループ」の比率の有意差検定では、全ての項目において1%水準で有意な差が見られた。しかし、「必要」及び「どちらかという必要」と答えた人の内訳を見ると、「試しのゲーム」、「中間のゲーム」及び「最終ゲーム」において、「どちらかという必要」と答えている人がそれぞれ33.8%、33.8%、27.3%であった。また、一回目の「成果の確認」、二回目の「課題の再把握」「活動の再工夫」及び「成

果の再確認」について、「どちらかという必要」と答えた人がそれぞれ 21.1%、38.7%、38.2%、35.1%であった。

### ウ. 教師の支援

表 33 アンケート結果・内容(教師の支援)

展開(教師の支援)	必要グループ			不要グループ	合計
	必要	どちらかという必要	小計	不要	
・はじめの段階					
(41)オリエンテーションの仕方	58(75.3%)	12(15.6%)	70(90.9%)	7(9.1%)	77**
(42)目標の設定の仕方	61(79.2%)	16(20.8%)	77(100%)	0(0.0%)	77**
・なかの段階					
(43)課題の把握の仕方	66(84.6%)	12(15.4%)	78(100%)	0(0.0%)	78**
(44)活動の工夫の仕方	66(84.6%)	12(15.4%)	78(100%)	0(0.0%)	78**
(45)成果の確認の仕方	61(78.2%)	17(21.8%)	78(100%)	0(0.0%)	78**
(46)課題の再把握の仕方	54(69.2%)	23(29.5%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
(47)活動の再工夫の仕方	56(71.8%)	21(26.9%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
・まとめの段階					
(48)成果の再確認の仕方	47(62.7%)	24(32.0%)	71(94.7%)	4(5.3%)	75**
(49)生徒の自己評価の仕方	58(74.4%)	15(19.2%)	73(93.6%)	5(6.4%)	78**

単位:人数 \*\*: $p<0.01$ (等比率の差の検定)

教師の支援については、「学習の手順と活動内容」に対する教師の支援として質問項目を設定し、その仕方を支援することとしてその必要性を調査したところ、「必要グループ」、「不要グループ」の比率の有意差検定では、全ての項目において1%水準で有意な差が見られた。しかし、「必要グループ」の「必要」及び「どちらかという必要」と答えた人の内訳を見ると、展開(学習の手順と活動内容)と同様、「成果の確認の仕方」、「課題の再把握の仕方」、「活動の再工



夫の仕方」の支援について、「どちらかという必要」と答えている人がそれぞれ 21.8%、29.5%、26.9%であった。また、「成果の再確認の仕方」についても 32.0%の人が「どちらかという必要」と答えている。さらに、「オリエンテーション」の仕方を支援することが、「不要」であるとしている人が 9.1%であった。

## エ. 評価

表 34 アンケート結果・内容(評価)

展開(評価)	必要グループ			不要グループ	合計
	必要	どちらかという必要	小計	不要	
・生徒の自己評価					
(50)学習の手順(学び方)	56(71.8%)	20(25.6%)	76(97.4%)	2(2.6%)	78**
(51)練習・ゲームの工夫(学び方)	66(84.6%)	12(15.4%)	78(100%)	0(0.0%)	78**
(52)関心・意欲・態度	72(92.3%)	6(7.7%)	78(100%)	0(0.1%)	78**
(53)技能	59(75.6%)	18(23.1%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**
・教師の評価					
(54)学習の手順(学び方)	63(81.8%)	13(16.9%)	76(98.7%)	1(1.3%)	77**
(55)練習・ゲームの工夫(学び方)	71(91.0%)	7(9.0%)	78(100%)	0(0.0%)	78**
(56)関心・意欲・態度	75(96.2%)	3(3.8%)	78(100%)	0(0.1%)	78**
(57)技能	64(82.1%)	13(16.7%)	77(98.7%)	1(1.3%)	78**

単位:人数 \*\*: $p<0.01$ (等比率の差の検定)

評価については、「生徒の自己評価」及び「教師の評価」の必要性を調査したところ、「必要グループ」、「不要グループ」の比率の有意差検定では、全ての項目において1%水準で有意な差が見られた。しかし、「必要グループ」の「必要」及び「どちらかという必要」と

答えた人の内訳を見ると、「生徒の自己評価」における「学習の手順（学び方）」及び「技能」については「どちらかという必要」であると答えた人がそれぞれ 25.6%、23.1%であった。また、教師の評価においても「学習の手順（学び方）」及び「技能」については「どちらかという必要」であると答えた人がそれぞれ 16.9%、16.7%であった。

#### オ．内容についての自由記述

内容についての自由記述は以下の通りである。

表 35 内容についての自由記述

項目	自由記述
枠組みと学習段階	展開の枠の名称は「学習活動」「支援と評価」の方がよいのでは。
学習の手順と活動内容	<p>学習手順と活動内容を分けただろうか。</p> <p>再把握、再工夫がよくわからない。毎時間の生徒のめあてや工夫があって当然と考えるので、“再”ではなく毎時間の活動としてあって当然だと思う。</p> <p>中間ゲーム、最終ゲームというよりもそのままゲームとしてもよいのでは。生徒はやはりどんなレベルでもゲームをしてみたいという欲求があり、それを試してみたいと思う。その中でミスなくするためには、練習を工夫していくことにより、技術を身につける大切さやチームワークを学んでいくと思う。</p> <p>「準備→課題設定→課題把握→課題解決（練習やゲーム）→反省（次時のねらいの確認）」という流れである。これが一般的な球技授業の流れである。</p> <p>全体的な流れについては理にかなっていると思う。ただ限られた時間の中で、能力差のある生徒をどれだけ目標に近づけられるかを考えると、グルーピングや習熟度別の課題設定等も必要になってくる。</p> <p>本時の指導における展開では「一斉」「グループ」「個人」がわかる欄等があると良いと思う。「なか」の部分で簡易ゲームを行ないながら、コートの大ささ、ルール等が変わっていくと思う。</p> <p>技能面での習熟度がゲームに大きな影響を与えるので、はじめ、なか、まとめの中で個と集団の技能をテスト（確認）する場面が必要かもしれない。集団のレベルはゲームの中で判断する方がよい。</p> <p>試しのゲーム・なかのゲーム・まとめのゲームと区別するよりも毎時間行なうこと（ゲーム）によって分ける必要がないと思う。その時間に練習したことをその時間に試すことが最近の授業の形態である。</p> <p>なかのゲームは毎時間やった方がよい。練習しているチームとゲームをやっているチームとコートを2面作ってやらせる。</p> <p>課題を把握するためにねらい1「今ある力で楽しむゲーム」⇒課題をつかんで解決する練習、ねらい2高まった力で楽しむゲーム⇒次時の課題をつかむという流れがほしい。</p>
教師の支援	<p>教師の支援ではなく指導が必要ではないか。活動の工夫も必要だが、いろいろな練習方法や段階的な練習の仕方を指導していく必要もある。</p> <p>教師の支援→教師の支援と評価</p> <p>教師の支援は「○○○○の仕方を支援する」どのようにという具体例を入れて書くようにしている。</p> <p>教師の支援については常に念頭においておくようにしたい。生徒が見通しを持ってまた学習方法をわかかって単元に取り組むような手立ても必要だと思う。</p>
評価	<p>評価をその活動の場面で常にに入れていく、どこでどんな評価項目が入ってくるのかを明記する。</p> <p>目標に対する評価項目を入れてはどうか。</p> <p>展開としてまとめの時間だけに評価があるが、毎時の授業の中に指導の目標があり、それについての評価が組み込まれていて、毎回何かしらの評価は必要だと思います。もちろん、まとめとして総合評価は必要だと思う。</p> <p>展開においてもやはり評価を明確にしておく必要があると思う。</p>
その他	<p>質問事項にあるものがどれもあつたらよいというもの。ただ、授業時間の中で何を優先して教えるかが必要。また、学校の実態や教師の力量にも関連する。対象がバレー部顧問の体育科教員だったが、バ2年生女子で作戦を生かしたゲームを行なうのは実質不可能である。最終目標は生徒の実態に合わせるが大切だと思う。</p> <p>この学習指導案が「各学年8クラス（学校全体で9クラス）・・・想定して作成した」とあるが、学校規模と指導案の関係はどこから読み取ればよいのか。</p> <p>学校全体で9クラスの中学校に保健体育科の教師が3名という設定はどこから計算されたのか。</p> <p>今年度、105→90時間に変更。15時間の計画は他との関係で無理であった。U中9クラス（各学年3クラス）保健体育科教員2名（男→男子生徒、女→女子生徒）。</p> <p>2年生2クラス女子生徒40名という設定→今はあまりありえない人数。8クラスだと1クラス35人前後が多い。男女による偏りがひどくないと2クラスで40名にはならない。また、1学年3クラスだと最近男女別にはならず、共修（共習）となることが多い。生涯体育を考えるのなら余計に、男女別の設定は時代遅れだと思う。</p> <p>最後の項目8のところに1コマの授業指導細案をつけて学習指導案として作ることを通常おこなっている。</p> <p>2年生を設定して考えるのであれば、1年生時の条件設定及び実態（どのくらいのことのできるようになっていくのか）の設定がないと、2年生時の指導案は考えられない。小学校から中学に上がったの実態はどの学校も大して変わらないと考えられるが、2年生の段階では、1年生のときの指導内容及びその成果によって実態が大きく変わってしまっている。</p> <p>今、生徒たちは自らの手で学習を組み立てていくといったが想像以上にできないというか苦手である。主体的に学習するということができれば本当に素晴らしいことだが、本校では恥ずかしい話、課題の設定や手立てを教師が与えているというのが現状である。</p>

## 2. 考察

### (1) 単元計画の形式

#### ア. 大項目

大項目については、必要性があるという知見が得られた。よって、大項目については全ての項目を単元計画に取り入れることとする。

#### イ. 中項目

中項目については、必要性があるという知見が得られた。しかし、「体育施設・用具」の項目については、「どちらかという必要」または「不要」と答える人が多く、施設や用具に関しては、単元計画に特に示さなくても教員が把握して、単元計画を作成すればよいと考えられる。よって、中項目については、「体育施設・用具」を除外し、その他の項目を単元計画に取り入れることとする。

#### ウ. 小項目

##### (ア) 運動の特性

小項目については、必要性があるという知見が得られた。しかし、一般的な特性及び生徒から見た特性については「どちらかという必要」もしくは「不要」と答える人が多く、運動の特性については、特に「必要」としている人は少ないのではないかと考える。また、

自由記述においても、運動の特性については、生徒の実態を捉えた上で生徒から見た運動の特性を把握する方が、より生徒の実態に即した授業を展開できるのではないかと述べられている。よって、大項目の「生徒の実態」を「運動の特性」より先に示し、「運動の特性」については、「一般的な特性」を除外し、「生徒から見た特性」のみを単元計画に取り入れることとする。

#### (イ) 時間配分

時間配分については、学習時間を 15 時間と設定するものに 1%水準で有意な差が認められた。よって、学習時間を 15 時間とするが適切であるという知見が得られた。しかし、学習時間については、各学校の生徒の実態や、年間計画によって左右されること自由記述にもあるように、各学校の方針によって異なるものであると考える。そのため、学習時間については時間数の幅を持たせる必要があると考える。

#### (ウ) 「はじめ」「まとめ」の時間数

はじめとまとめの時間数については、学習段階におけるはじめの時間数及び、まとめの時間数を 1 時間とするが適切であるという知見が得られた。しかし、はじめの時間に関してはオリエンテーションにおいてバレーボールの技術やルールといった知識を理解することや、グループ編成を行なうこと、グループで目標を設定する、ま

た、学び方の学習内容を理解させるなどといった動機付けをすることが、その単元の目標を達成する上で重要な役割を担うと考えることから、2時間で学習時間を構成するのが適切であるとした。

## エ．形式についての自由記述

形式に関しては、「各学校によって違いがあり一概には言えないが、おおむねこの形式でよい」とする意見が多かった。しかし、ねらい学習を主に行なっている学校では、「ねらい1、2、3」というねらいの段階を学習段階にしていた。これに関しては、運動の学び方に着目した単元計画では、ねらい学習を主に置いていないので、学習段階は「はじめ、なか、まとめ」という形式にした。

また、「この単元計画が略案過ぎて一単位時間の学習内容が見えてこない」という意見に対しては、今後より深い検討を加え、一単位時間の指導案も提案していく必要があると考える。学習内容については、ルールの工夫や教材の工夫などより詳しく示していく必要があると考える。評価についても、毎時間の中で行なえるような評価項目を単元計画の中に取り込む必要があると考えるが、今回提示する単元計画については、評価については詳しく調べていない。ただし、今後より実践的な単元計画にするためには評価項目を明確にすべきであると考えている。

## (2) 単元計画の内容

### ア. 枠組みと学習段階

枠組みと学習段階については、必要性があるという知見が得られた。よって、枠組みと学習段階については全ての項目を単元計画に取り入れることとする。

### イ. 学習の手順と活動内容

学習の手順と活動内容については、必要性があるという知見が得られた。しかし、「試しのゲーム」、「中間のゲーム」、「最終のゲーム」については、「どちらかという必要」と答えた人も多かった。これは、毎時間の中でゲームをさせることで次時の課題を持たせるといった授業を展開することによって、生徒に課題解決能力を身につかせようとするものであると考える。

また、「課題の再把握」、「活動の再工夫」、「成果の再確認」についても「どちらかという必要」が多かったのは、「運動の学び方」という学習内容が新しいものであるため、現場ではまだ実践が少なく、それぞれの項目の意味を十分理解できないことが理由であると考えられる。「課題の再把握」、「活動の再工夫」、「成果の再確認」といったそれぞれの項目は、全体の展開の流れであって、毎時間の中でこの「目標の設定」「課題の把握」「活動の工夫」「成果の確認」があると考え

る。そして、全体の大きな流れとして、一度「目標の設定」、「課題の把握」、「活動の工夫」、「成果の確認」を一通り体験し、また次いで同じ過程を繰り返すことによって「運動の学び方」を身につけることができると考えた。よって、学習の手順と活動内容については全ての内容の項目を単元計画に取り入れることとする。

#### ウ．教師の支援

教師の支援については、必要性があるという知見が得られた。しかし、前述の学習の手順と活動内容と同様、「課題の再把握の仕方」の支援、「活動の再工夫の仕方」の支援、「成果の再確認の仕方」の支援については、「どちらかという必要」と答えた人が多かった。ここでは、具体的な支援の仕方を示すまでには至っていないが、教師の支援については、その場で臨機応変に対応することが求められることから「運動の学び方」を身に付けるためには、教師が一斉に、もしくは一方的に指導するのではなく、生徒の運動学習の立場に立って支援することが大切である。そのため、学習の手順と活動内容に即した教師の支援が必要になると考える。よって、教師の支援は全ての項目を単元計画に取り入れることとする。



## エ. 評価

評価については、必要性があるという知見が得られた。ここでは、「学び方」の評価項目について「どちらかという必要」と答えた人が比較的多かったが、自由記述において評価基準を的確に定め、毎時間の授業の中で評価していくことや、学習カードなどを活用することで評価をしていくべきではないかという意見がみられた。

運動の学び方の項目は新しい学習内容であるので、その評価の仕方については、今後更に検討していく必要があると考える。よって、今回の評価については、全ての項目を単元計画に取り入れることとする。

## オ. 内容についての自由記述

内容については、「全体的な流れはこの形式でよい」とされた。しかし、学校の実態や教師の力量によって、単元計画の形式や内容も変化すると考えられる。

また、「アンケートの対象がバレー部顧問の保健体育科教員だったが、バレー部顧問以外の教員の方が客観的に考えられるのではないか」という意見もあった。この意見に対しては、今後、アンケートの対象をバレーボールの顧問に限らず、保健体育科の教員全てにすることによって、更なる検討を加えることができると考える。

学習内容に関しては、中学 2 年生レベルでは作戦を生かしたゲームを行なうのは無理であるとする意見や、ゲームの仕方についても、試しのゲーム、中間のゲーム、まとめのゲームの他に、さらに毎時間の中でもゲームをしていくことが必要であるという示唆が得られた。

最後に、学校規模と単元計画の関係については、学校全体で 9 クラスの中学校に保健体育科の教員が 3 名という設定はあまり見られないという意見があったことや、現在では 2 年生 2 クラス女子生徒 40 人という設定は異例で、1 学年 35 人程度が普通で、1 学年 3 クラスだと男女別にならず、男女共習となることが多いといった意見から、今回の単元計画における設定を中学 2 年生 3 クラス（学校全体で 9 クラス）、男女計 35 人のクラスとすることとした。人数に関しては、現代の少子化を考えると設定を修正する必要があると考える。また、男女共習に関しては、男女が一緒に体育授業を行なうことによって、協調性や他人を思いやる心が育ち、生きる力における「豊かな人間性」が育まれると考える。さらに、永島は「中学校では積極的に男女共習を導入すべきである」と述べている。したがって、今回は設定を修正し単元計画モデルを提示する。

### 第3章 結論

#### 第1節 運動の学び方の育成に着目した単元計画モデルの提示

以上、アンケート調査の結果と考察を踏まえ、運動の学び方の育成に着目したバレーボールの単元計画モデルを提示し、結論とする。

以下のような単元計画によって、運動の学び方を育成することができるが、教師の指導歴や学校の実態により、現状に即して取り入れることが必要であると考えられる。

#### 運動の学び方の育成に着目したバレーボール単元計画

1. 単元名 バレーボール
2. 生徒の実態  
(対象クラスの数や雰囲気、スポーツテストの結果などから生徒の実態をつかむ)
3. 運動の特性  
(1)生徒から見た運動の特性:  
 ①構造的特性(どんな個人的技能や集団的技能がゲームを行なうために必要なのか)  
 ②機能的特性(どんな時に楽しさやつらさを感じるのか)  
 ③効果的機能(どんな体力や社会的態度が必要なのか)
4. 教師の授業への意図  
(バレーボールの特性を生かしながら運動の学び方を習得させる)
5. 単元目標  
(バレーボールの練習やゲームの仕方を工夫しながら運動の学び方を習得する)
6. 学習の手順  
(1目標の設定、2課題の把握、3活動の工夫、4成果の確認という手順で行なう)
7. 時間配分  
(はじめ、なか、まとめの時間数と1時間ごとの授業の流れ)

時分	はじめ (1~2)	なか (3~9)	(10~14)	まとめ (15)
0	オリエンテーション	準備運動		成果の再確認
10	・目標の設定	・課題の把握 ・活動の工夫 ・成果の確認	・課題の再把握 ・活動の再工夫	
20	試しのゲーム	中間のゲーム	最終のゲーム	生徒の自己評価 教師の評価
30				
40				
50	整理運動と本時のまとめ			

8. 展開（学習活動と教師の支援）

学習段階	学習の手順と活動内容	教師の支援
はじめ (2)	<p>オリエンテーション 単元の目標を理解し、学習の手順についての見通しを持つ。 グループ編成と役割分担を決める。</p> <p>1 目標の設定 各グループでチームや個人の目標を話し合って決める。 * 試しのゲームを行う。 今持っている力でゲームを行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの仕方を支援する。</li> <li>・目標の設定の仕方を支援する。</li> </ul>
なか (7)	<p>2-① 課題の把握 目標を達成するための課題をつかむ。</p> <p>3-① 活動の工夫 グループごとの課題に合わせて練習の仕方を工夫しながら個人的技能や集団的技能を習得する。 * 中間のゲームを行う。 ルール等を工夫し、作戦を立ててゲームを行なう。</p> <p>4-① 成果の確認 各グループで課題、活動に対する反省と成果の確認を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の把握の仕方を支援する。</li> <li>・活動の工夫の仕方を支援する。</li> <li>・成果の確認の仕方を支援する。</li> </ul>
(5)	<p>2-② 課題の再把握 目標を達成するための課題を再度つかむ。</p> <p>3-② 活動の再工夫 練習の仕方を再度工夫しながら不十分な個人的技能や集団的技能を習得する。 * 最終のゲームを行う。 作戦を生かした攻防を展開してゲームを行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の再把握の仕方を支援する。</li> <li>・活動の再工夫の仕方を支援する。</li> </ul>
まとめ (1)	<p>4-② 成果の確認 各グループでチームや個人の目標、課題、活動に対する反省</p> <p>生徒の自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の手順を身につけることができたか（学び方）</li> <li>・練習やゲームの仕方を工夫することができたか（学び方）</li> <li>・互いに協力し楽しく意欲的に学習ができたか（関心・意欲・態度）</li> <li>・作戦を生かしたゲームができたか（技能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の再確認の仕方を支援する。</li> <li>・生徒の自己評価の仕方を支援する。</li> </ul> <p>教師の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の手順を身につけることができたか（学び方）</li> <li>・練習やゲームの仕方を工夫することができたか（学び方）</li> <li>・互いに協力し楽しく意欲的に学習ができたか（関心・意欲・態度）</li> <li>・作戦を生かしたゲームができたか（技能）</li> </ul>

※この学習指導案は、各学年3クラス（学校全体で9クラス）の中学校で、保健体育科の教師が2名の学校規模を想定して作成した。また、この授業は2年生の男女計35名に対して1名の教師で授業を行うものとする。

## 第2節 本研究の限界

本研究では、文献調査の際、「中学校保健体育指導書」、「中学校指導書保健体育編」及び、「中学校保健体育指導資料」の他に、「学校体育」と「体育科教育」に限定し調査を行ったこと、また、アンケートの対象者を千葉県内の保健体育科教員に限定したこと、またバレーボールを特技としている保健体育科教員を主としてアンケート調査を行なったことから、単元計画モデルとしては、更に一層検討する必要があると考える。

## 第3節 今後の課題

今後の課題としては、より一般的な単元計画モデルとするためには、さらに広い範囲で文献調査及びアンケート調査を行なうことが必要であると考えます。また、本研究で提示した単元計画モデルを、実際の単元計画として体育授業において展開し、実証、検証することでより充実した単元計画となると考える。

## 要 約

本研究は、運動の学び方の育成に着目したバレーボールの単元計画モデルを作成することを目的に、「中学校保健体育指導書」、「中学校指導書保健体育編」、「中学校保健体育指導資料」（文部省）、「体育科教育」（大修館書店）及び、「学校体育」（日本体育社）を対象にバレーボールの単元計画の形式（項目）と内容（展開）を調査した。その文献調査から得られた形式と内容を基に、運動の学び方の育成に着目したバレーボールの単元計画（案）を作成した。そして、その単元計画（案）の項目及び内容の必要性及び適切性を、千葉県内のバレーボール部の顧問をしている保健体育科の教員を対象に調査を行なった。その結果を検討し、以下に示す形式や内容で構成する単元計画モデルを提示することとした。

形式について：

- 1) 大項目は、単元名、生徒の実態、運動の特性、教師の授業への意図、単元の目標、学習の手順、時間配分、展開の 8 項目を示す。
- 2) 中項目は、運動の特性において、生徒から見た特性のみを示す。
- 3) 小項目は、生徒から見た特性において、構造的特性、機能的特性、効果的特性の 3 項目を示す。

内容について：

- 1) 枠組みは、学習段階、学習の手順と活動内容及び、教師の支援で構成する。
- 2) 学習の手順と活動内容に、目標の設定、課題の把握、活動の工夫、成果の確認の4項目を取り入れる。

## 謝 辞

本研究を終えるにあたり、終始あたたかくご指導を頂き、かつ審査をして頂いた浦井孝夫教授に心より深く感謝申し上げます。

また、アンケート調査に際し、千葉県小中学校体育連盟バレーボール専門委員長宍倉正巳先生、並びに千葉県中学校体育連盟バレーボール専門部各支部専門委員長の皆様をはじめ、アンケートの回答にご協力頂いた千葉県内中学校バレーボール部顧問の先生方には厚く御礼申し上げます。

最後に、長きにわたるご指導とあたたかい励ましを賜りました川合武司教授、武井正子教授をはじめ、統計処理に関してご指導下さいました三野大來教授、欧文要約に関してご指導下さいました勝又宏助手、他ご指導下さいました多くの順天堂大学の先生方に感謝いたしますと共に、何かと手伝って下さった多くの院生並びに学生の皆様に謝意を表します。



## 参考文献

- 1) 青木真：体育授業の計画．学校体育授業辞典、145-149，大修館書店：東京(1995)
- 2) 浅井浅一：球技におけるグループ指導の問題点．体育科教育、1028-32，大修館書店：東京(1956)
- 3) 浅川正一：体育理論の指導計画－運動と心身の発達．体育科教育、322-27，大修館書店：東京(1958)
- 4) 浅見俊雄：ボール運動の習熟過程．体育科教育、3、43-45，大修館書店：東京(1976)
- 5) 浅海公平 佐藤篤志：バレーボールのグループ学習（中学校）．学校体育、5、92-97，日本体育社：東京(1960)
- 6) 浅海公平 佐藤篤志：バレーボールのグループ学習（中学校）．学校体育、5、74-78，日本体育社：東京(1960)
- 7) 團 琢磨：「楽しい体育」をつくる授業過程と評価の視点．体育科教育、2、31-33，大修館書店：東京(1983)
- 8) 江口勝浩：学び方学習の充実を目指して－選択性授業への導入段階として－．スポーツと健康、28（12）、17-20，文部省体育局第一法規出版：東京(1996)
- 9) 藤井喜一：学習指導案のポイント 4年生の跳び箱をどう考えたか．体育科教育、3、70-72，大修館書店：東京(1988)

- 10) 藤田幸康：スポーツの練習法—バレーボールの授業実践を通して—。学校体育、12、121-127, 日本体育社：東京(1987)
- 11) 深瀬吉邦：「スポーツの主人公」をめざすバレーボールのカリキュラムと授業の考え方。学校体育、6、29-31, 日本体育社：東京(1991)
- 12) 府川完男：指導案の新しい試み—学習内容と学習活動との関連。体育科教育、4、50-54, 大修館書店：東京(1956)
- 13) 福原祐三：中学校女子 バレーボールへの導入。学校体育、9、112-116, 日本体育社：東京(1974)
- 14) 福本敏雄：指導計画の作成と手順。体育科教育学入門、140—146, 大修館書店：東京(2002)
- 15) 福西孝充：バレーボール 好きにさせる授業を求めて。学校体育、12、112-115, 日本体育社：東京(1980)
- 16) 古畑和弘：中学校男女 男女共修のバレーボール。学校体育、6、52-55, 日本体育社：東京(1990)
- 17) 早坂正雄 平田 佐々木信夫：中学校のバレーボール 生徒の実態から導き出す。学校体育、4、32-37, 日本体育社：東京(1980)
- 18) 広瀬裕司：中学校男子バレーボール ゲームの質を高めるために。学校体育、9、113-119, 日本体育社：東京(1979)
- 19) 広島大学付属福山中・高等学校体育科：中学校学年に応じた

- 単元の展開と評価 男子バレーボール. 学校体育、10、97-104,  
日本体育社：東京(1975)
- 20) 菱山一正：指導計画立案に役立つ資料の取り方. 学校体育、  
4、57-61, 日本体育社：東京(1974)
- 21) 細江文利：体育授業の方法. 学校体育授業辞典、150-158,  
大修館書店：東京(1995)
- 22) 兵頭寛：学習指導計画作成の基本的視点と手順. 学校体育、  
3、18-23, 日本体育社：東京(1980)
- 23) 井川浩一：パソコンを使ったバレーボールの授業（中学校）.  
体育科教育、9、40-44, 大修館書店：東京(1994)
- 24) 池田光政：球技指導のすすめ方の変遷. 学校体育、11、18-24,  
日本体育社：東京(1981)
- 25) 池田光政：みんなが楽しめるバレーボールの指導を求めて.  
学校体育、6、12-19, 日本体育社：東京(1985)
- 26) 池田延行. 戸田芳雄：体育科の学習指導の改善の基本的な考  
え方. 初等教育資料、720、18-23, 文部省 東洋館出版社：東  
京(2000)
- 27) 生田豊 黒田浩：中学校におけるバレーボール教材のとりく  
み方. 学校体育、8、131-138, 日本体育社：東京(1973)
- 28) 石川佐代子（他）：小学校体育授業における走り高跳び指導カ

- リキュラムに関する研究. 大阪教育大学紀要 4 教育科学、50、  
385-398, 大阪教育大学, (2002)
- 29) 石井宗一・迫田光志:中学校二年男子バレーボールを中心に.  
体育科教育、12、37-41, 大修館書店:東京(1967)
- 30) 伊藤政男:スポーツ・体育系大学の運動実技カリキュラムに  
関する研究. 順天堂大学スポーツ健康科学部 平成13年度学内  
共同研究報告書、11, (2001)
- 31) 井谷恵子:バレーボールにおける認識学習の展開.学校体育、  
12、56-60, 日本体育社:東京(1992)
- 32) 柿沼日吉:自主性・主体性をのばす授業展開のくふう. 体育  
科教育、11、39-41, 大修館書店:東京(1972)
- 33) 金子明友:体育学習のスポーツ運動学的視座. 体育・保健科  
教育論、島崎仁 松岡宏、55-65, 東信堂:東京(1988)
- 34) 笠井恵雄:中学校体育の指導計画とその問題点—特に年間計  
画を中心として—. 体育科教育、3、5-8, 大修館書店:東京(1962)
- 35) 川口久紀:男女 効果的なバレーボール指導をめざして. 学  
校体育、9、114-121, 日本体育社:東京(1989)
- 36) 川城健:ボール運動の学習過程をどう工夫したらよいか. 体  
育科教育、12、34-37, 大修館書店:東京(1988)
- 37) 木原健太郎:よい授業とその法則. 体育科教育、9、2-5, 大

修館書店：東京(1979)

- 38) 木村清人：生きる力をはぐくむ保健教育．新体育教育の視座、  
2-3， 暁教育図書：東京(1995)
- 39) 小林繁：児童を生かす指導案の作り方．学校体育、6、75-77，  
日本体育社：東京(1992)
- 40) 小峰昌一：中学校女子バレーボール 初歩的段階で楽しめる  
ゲームづくり．学校体育、6、106-112， 日本体育社：東京(1979)
- 41) 河野重男、児島邦宏：生きる力をはぐくむ授業．生きる力  
をはぐくむ、160-166， ぎょうせい：東京(1997)
- 42) 工藤信朋：バレーボールの単元計画・学習指導案 学習指課  
程の再検討を．学校体育、3、52-57， 日本体育社：東京(1980)
- 43) 黒後洋、小川宏、黒後昭：中学校バレーボール教材に関する  
授業方法の検討．宇都宮大学教育学部 教育実践総合センター紀  
要、23、211-220， 宇都宮大学教育学部附属教育実践総合センタ  
ー，(2000)
- 44) 教育課程審議会：幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学  
校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について(答申)．  
62-64，(1998)
- 45) 増田辰夫：中学校 男子バレーボール教材はいつ取り上げる  
べきか．学校体育、3、100-105， 日本体育社：東京(1983)

- 46) 松田岩男：指導計画に児童をどこまでタッチさせたらよいか。  
体育科教育、1、17-19、大修館書店：東京(1962)
- 47) 松田元宏・松川利広：「学び方」に関する基礎的研究－「日本  
学び方研究会」の場合。奈良教育大学紀要、第49巻第1号、1  
－12、(2000)
- 48) 三重県中学校保健体育研究会：共に楽しさを深め合う学習を  
求めて－バレーボールの授業をてがかりにして－。学校体育、12、  
48-55、日本体育社：東京(1992)
- 49) 三上憲孝・小峠博幸：男女共習によるバレーボールの実践(中  
学校)。体育科教育、2、44-47、大修館書店：東京(1990)
- 50) 文部科学省：中学校学習指導要領。文部科学省、5-7、大蔵省  
印刷局：東京(1998)
- 51) 文部科学省：中学校学習指導要領解説－保健体育編。文部科  
学省、106、東山書房：京都(1999)
- 52) 文部科学省：中学校学習指導要領解説－保健体育編。文部科  
学省、東山書房：京都(1999)
- 53) 文部科学省：高等学校学習指導要領。文部科学省、大蔵省印  
刷局：東京(1999)
- 54) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説－保健体育編。文部  
科学省、東山書房：京都(1999)

- 55) 文部省：中学校保健体育指導書．文部省、134-144，東山書房：京都(1959)
- 56) 文部省：中学校保健体育指導書．文部省、290-295，東山書房：京都(1959)
- 57) 文部省：中学校指導書保健体育編．文部省、103-106，東山書房：京都(1970)
- 58) 文部省：中学校指導書保健体育編．文部省、112-113，東山書房：京都(1970)
- 59) 文部省：中学校指導書保健体育編．文部省、52-57，東山書房：京都(1978)
- 60) 文部省：中学校指導書保健体育編．文部省、38，東山書房：京都(1989)
- 61) 文部省：中学校保健体育指導資料 指導計画の作成と学習指導の工夫．文部省、21-25，東山書房：京都(1991)
- 62) 文部省：21世紀を展望した我が国の教育の在り方について．文部時報 8月臨時増刊号、1-161，ぎょうせい：東京(1997)
- 63) 本村清人：(中学校)「保健体育」体育分野の指導計画の作成と指導上留意点．教職研修、28、54-57，教育開発研究所：東京(1999)
- 64) 永島惇正：年間指導計画、単元計画の基本的な考え方．体育

科教育、3、14-18, 大修館書店：東京(1993)

- 65) 永島惇正：体育の学習と指導（自発性と指導性）. 宇土正彦、高島稔、高橋健夫体育科教育法講義、66-67, 大修館書店：東京(1992)
- 66) 中本薩雄：女子 楽しさを味わわせるために用具・ルールを工夫したバレーボールの授業. 学校体育、11、114-124, 日本体育社：東京(1987)
- 67) 中村四郎：コーチからみた運動技術の中核 バレーボール. 体育科教育、9、40-42, 大修館書店：東京(1972)
- 68) 中村康弘：体育科（運動領域）の指導計画作成の具現化. 初等教育資料、720、27-29, 文部省 東洋館出版社：東京(2000)
- 69) 西嶋尚彦、鈴木和弘、小山浩、川口千代、小松崎敏：中学校体育授業における主体的問題解決能力育成プロセスの因果構造分析. 体育学研究、45、347-359, 日本体育学会、(2000)
- 70) 西川順之助：バレーボールにみる世界と日本—ソ連・東欧と日本の比較を中心に. 体育科教育、1、46-48, 大修館書店：東京(1976)
- 71) 西川順之助：バレーボールの技術と戦法の将来. 体育科教育、1、58-59, 大修館書店：東京(1977)
- 72) 西沢宏：指導案の書き方・生かし方. 体育科教育、9、48-51,



大修館書店：東京(1985)

- 73) 野口昌廣：学習指導案を考える．学校体育、3、24-29，日本体育社：東京(1980)
- 74) 野口昌廣：一人ひとりを生かすボール運動（球技）の単元計画のあり方．学校体育、6、22-26，日本体育社：東京(1987)
- 75) 野口七郎：ボール運動（球技）の授業とグループ学習．体育科教育、2、29-31，大修館書店：東京(1981)
- 76) 能沢博：みんなのスポーツをめざすバレーボールの指導．学校体育、3、107-113，日本体育社：東京(1980)
- 77) 熊沢直孝：バレーボールの仕組みとその過程．体育科教育、7、126-128，大修館書店：東京(1982)
- 78) 大段員美：良い指導案、悪い指導案．体育科教育、2、20-22，大修館書店：東京(1974)
- 79) 小鹿野友平：バレーの技術構造とスキルテスト．体育科教育、2、44-46，大修館書店：東京(1970)
- 80) 大野武治：バレーボールにおける基礎技能の評価例．体育科教育、2、38-40，大修館書店：東京(1966)
- 81) 大野武治：バレーの技術構造．体育科教育、2、40-42，大修館書店：東京(1968)
- 82) 大野武治：簡易バレーボールから六人制バレーボールへ．体

- 育科教育、11、46-47、大修館書店：東京(1973)
- 83) 大野武治：バレーボールの特性と指導の原則．学校体育、3、106-112、日本体育社：東京(1973)
- 84) 大竹博幸：バレーボール女子 パス練習とゲーム中心の初歩的指導．学校体育、5、108-113、日本体育社：東京(1981)
- 85) 大津竹雄：研究会でとりあげたい教材とその取り扱いの要点 ボール運動．体育科教育、5、61-64、大修館書店：東京(1959)
- 86) 小沢久夫：学年に応ずるボール運動とその指導段階．体育科教育、9、34-43、大修館書店：東京(1958)
- 87) 尾澤洋二：一人ひとりを生かす学習評価の工夫 バレーボールを生かして．体育科教育、9、46-51、大修館書店：東京(1987)
- 88) 迫田光志：中学校 一年バレーの導入．体育科教育、4、40-42、大修館書店：東京(1969)
- 89) 佐藤裕：創造性と体育の授業改造．学校体育授業辞典、649-652、大修館書店：東京(1995)
- 90) 関口満：人とのかかわりを通して「生きる力」を培う球技指導．新体育教育の視座、25-25、暁教育図書：東京(1995)
- 91) 関孝世：授業におけるゲーム指導の原則．体育科教育、2、22-25、大修館書店：東京(1974)
- 92) 関四郎：ボール運動と球技．体育科教育、10、47-50、大修

館書店：東京(1970)

- 93) 芹沢康子：中学校・高等学校の体育「学び方」を評価する。  
女子体育、2、17-20，日本女子体育連盟：東京(2001)
- 94) 品田龍吉：学習指導計画の考え方・進め方。体育科教育、2、  
16-20，大修館書店：東京(1995)
- 95) 新保淳：教科教育におけるバレーボール特性論の再検討。静  
岡大学教育学部研究報告、26、165-178，静岡大学教育学部，  
(1995)
- 96) 体育授業研究グループ「ふくらもう会」：中学校 2年生男子  
生徒の意欲を引き出すバレーボールの指導。学校体育、6、  
102-113，日本体育社：東京(1985)
- 97) 高橋健夫他：バレーボールの授業研究 その1 二つの指導  
法とその成果。体育科教育、4、72-79，大修館書店：東京(1986)
- 98) 高橋健夫他：バレーボールの授業研究 その2 バレーボ  
ール教材はいつ取り上げるべきか。体育科教育、5、74-79，大修館  
書店：東京(1986)
- 99) 高橋健夫他：バレーボールの授業研究 その3 触球数4回  
制の有効性について。体育科教育、6、62-67，大修館書店：東京  
(1986)
- 100) 高橋健夫：体育科の指導計画と指導方法の改善（特集教育課

- 程の基準の改訂－体育科). 初等教育資料、701、20-25, 文部省  
東洋館出版社：東京(1999)
- 101) 高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖：体育科の目標. 体育科教育学入門、40-43, 大修館書店：東京(2002)
- 102) 高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖：体育科の学習内容論. 体育科教育学入門、67-68, 大修館書店：東京(2002)
- 103) 高島稔：年間計画・単元計画と授業過程の工夫・充実. 体育科教育、5、18-20, 大修館書店：東京(1971)
- 104) 竹田清彦、高橋健夫、岡出美則：体育科の目的・目標論. 体育科教育学の探究、18-25, 大修館書店：東京(1997)
- 105) 武隈晃：体育科（運動領域）の指導計画作成のポイント. 初等教育資料、720、24-26, 文部省 東洋館出版社：東京(2000)
- 106) 田中一次：中学校 女子バレーボールの効果的な指導法. 学校体育、4、105-110, 日本体育社：東京(1982)
- 107) 谷道七郎：単元計画づくりのワン・ポイント. 体育科教育、4、45-48, 大修館書店：東京(1989)
- 108) 東京教育大学付属小学校：指導計画実施にあたっての問題点とその解決. 学校体育、4、52-56, 日本体育社：東京(1974)
- 109) 朽堀申二：生活に生きる運動技術の教え方一中・高等学校・バレーボール. 学校体育、1、51-56, 日本体育社：東京(1974)

- 110) 朽掘申二：バレーボールの簡易ルールと指導のしかた．体育科教育、12、45-47，大修館書店：東京(1972)
- 111) 朽掘申二：バレーボールは小学生には無理な教材か．体育科教育、5、58-59，大修館書店：東京(1980)
- 112) 朽掘申二：バレーボールの年間計画と単元計画．バレーボールの学習指導と教材研究．松本昌三、森田昭子、川合武司、横沢民男、濱野光之、徳永文利、46-64，不昧堂出版：東京(1997)
- 113) 宇土正彦：体育の指導計画．体育科教育法講義、89-97，大修館書店：東京(1992)
- 114) 浦久保寿彦 矢田節彦：中学校学年に応じた単元の展開と評価 女子バレーボールの主体的学習．学校体育、3、103-109，日本体育社：東京(1976)
- 115) 渡辺由紀子：自らチャレンジするバレーボールの授業づくりの実際．学校体育、6、26-28，日本体育社：東京(1990)
- 116) 八木修一：中学校バレーボール 下手な子でも運動は好き．学校体育、12、91-96，日本体育社：東京(1980)
- 117) 八木田正俊：校内フットベース大会．体育科教育、5、33-39，大修館書店：東京(1957)
- 118) 山田義実：「心はナショナルチームの一員」——一年生のバレーボールの実践をふり返って——．学校体育、4、106-112，日本体

- 育社：東京(1989)
- 119) 山本隆久：バレーボールの集団的技能の指導．学校体育、8、  
110-115，日本体育社：東京(1973)
- 120) 山本隆久：動きの特性と指導(2) バレーボール．体育科教育、3、45-47，大修館書店：東京(1972)
- 121) 山城淳二：男子 みんながバレーボールを楽しむ学習指導の工夫．学校体育、11、104-111，日本体育社：東京(1987)
- 122) 山内龍雄：単元計画の考え方・進め方．体育科教育、6、40-42，  
大修館書店：東京(1991)
- 123) 山崎実：女子バレーボールの指導(中学校)．学校体育、5、  
114-121，日本体育社：東京(1971)
- 124) 矢野久英：指導計画作成の手順．体育科教育、2、14-16，大修館書店：東京(1974)
- 125) 八代勉：授業過程を充実させる指導計画の立て方．体育科教育、7、25-27，大修館書店：東京(1982)
- 126) 吉田泰将：学習指導要領改訂に伴う武道の単元計画の検討－  
剣道における「形」指導上の留意点を中心に－．体育研究所紀要  
(慶応義塾大学体育研究所)、31、31-37，慶応義塾大学体育研  
究所：東京(1991)
- 127) 吉村恒男：バレーボールの授業－はじめての扱い方．体育科

教育、4、34-38, 大修館書店：東京(1977)

**The Study on the unit plan of volleyball for PE classes**

**in a junior high school:**

**Focusing on enhancing students' capability of**

**acquiring how to learn playing sports**

**Tomoko Ogiwara**

**Summary**

The goal of the present study was to build a model of unit plan for volleyball classes. To this end, the following materials were examined in terms of style which consists of items and contents described by the organization of classes: "Guidance of health and physical education for a junior high school", "Guidance of education for a junior high school edited for health and physical education", and "Materials teaching of health and physical education in a junior high school" were issued by the Ministry of Education, "Manuals for a course of study in a junior high school, edited for health and physical education" were issued by the Ministry of Education and Science, "Education of PE course" were issued by Taishukan-shoten, and "physical education in



school " were issued by Japan PE company. Based on this examination, the model of unit plan was built. This model was subject to the evaluation by PE teachers, who coach volleyball clubs in Chiba prefecture, using a questionnaire in terms of the validity of the items and the organization. Through this process, the original model was revised, and it is concluded that the followings are need to be considered for the unit plan, in terms of the style and organization of classes.

For the style, the following three levels of items are necessarily.

- 1) Major items were composed by "the name of unit", "the actual properties of students", "the properties of sports", "the goal of teaching a class", "the goal of unit", "the procedure for learning", "the timetable", and "the organization of a class".
- 2) A sub-item revealed to concern with "the properties of sports from students' points of view".
- 3) Minor items were composed by the three properties form the students' view, such as "function", "structure", and "effect".

For the organization of classes, the followings need to be concerned.

- 1) For designing classes, it needs to be based on "the stage of learning", "the procedure for learning and the contents of an activity", and "the support by a teacher".
- 2) For enhancing on enhancing students' capability of acquiring how to learn playing sports, the following items need to be included, such as, "setting a goal", "identifying tasks for the goal", "design of activities for students their own", and "confirming of achievement".

## 第 2 節 文献調査の結果と考察

### 1. 各年代における単元計画

#### (1) 1960年代における単元計画

##### ア. 単元計画の形式

- ① 「中学校保健体育指導書」：1959年（昭和34年）の「中学校保健体育指導書」では、単元計画の形式については記載されていない（56)55)56）。
- ② 「体育科教育」：1960年代の「体育科教育」では指導案の新しい試みとして、いくつか単元計画の形式について紹介されている（2)3)12)46)46)85)117）。単元計画の形式には、「単元名」、「単元設定の理由」、「教師の目標」、「計画の要点」、「学習の展開」といった項目が見られる。【表1】また、「生活との関連」という項目で、運動種目の特性を生活の中でどのように生かしていくかということが書かれていることから、運動を児童・生徒の生活の一部として位置付けようとしていることがわかる（12)86)117）。1960年代は形式よりも、どのように運動技能を習得させるかに焦点が当てられていたため、単元計画の形式も略式的なものが多く見られる。

## 運動の学び方の育成に着目した バレーボールの単元計画（案）に関するアンケート

### ○調査を始める前に

1. この調査は、修士論文を作成するもので、別紙の運動の学び方を育成するためのバレーボールの単元計画（案）について調査するものです。結果は、集計処理されるだけで、個人のデータは無断で利用されたり、公表されたりすることは一切ありません。
2. 別紙の運動の学び方の育成に着目したバレーボール単元計画（案）を照らし合わせながら質問に答えるようにしてください。
3. あてはまるもの、または数字に○印をつけてください。
4. この単元計画は中学2年生女子体育授業のバレーボール単元を想定して作成したものです。

○差し支えなければ、支部名をお書きください。

支部

※別紙の単元計画（案）をご覧になりながらお答えください。

## I. 単元計画に必要な形式（大項目・中項目・小項目）についてお尋ねします。

### ○大項目について

- |                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| (1) 「単元名」は必要ですか            | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (2) 「運動の特性」は必要ですか          | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (3) 「生徒の実態」は必要ですか          | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (4) 「教師の授業への意図」は必要ですか      | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (5) 「単元の目標」は必要ですか          | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (6) 「学習の手順」は必要ですか          | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (7) 「時間配分と体育施設・用具」は必要ですか   | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (8) 「展開（学習活動と教師の支援）」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |

### ○中項目について

#### ・運動の特性について

- |                           |                     |
|---------------------------|---------------------|
| (9) 「一般的な特性について」は必要ですか    | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (10) 「生徒からみた特性について」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |

#### ・時間配分と体育施設・用具

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| (11) 「時間配分」は必要ですか    | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (12) 「体育施設・用具」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |

### ○小項目について

#### ・一般的な特性について

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| (13) 「構造的特性」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (14) 「機能的特性」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (15) 「効果的特性」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |

#### ・生徒からみた特性について

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| (16) 「構造的特性」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (17) 「機能的特性」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |
| (18) 「効果的特性」は必要ですか | [必要・どちらかというとも必要・不要] |

#### ・時間配分について

- |                                      |                      |
|--------------------------------------|----------------------|
| (19) 「学習時間」（単元での時間数）は10時間程度が適切ですか    | [適切・どちらかというとも適切・不適切] |
| (20) 「学習時間」（単元での時間数）は15時間程度が適切ですか    | [適切・どちらかというとも適切・不適切] |
| (21) 「学習時間」（単元での時間数）は20時間程度が適切ですか    | [適切・どちらかというとも適切・不適切] |
| (22) 単元の時間数にかかわらず「はじめ」の時間数は何時間が必要ですか | [0・1・2・3（時間）]        |

(23) 単元の時間数にかかわらず「まとめ」の時間数は何時間が必要ですか

[ 0 ・ 1 ・ 2 ・ 3 (時間) ]

○形式について、疑問・ご意見等ありましたらお書きください。

## Ⅱ. 次に、単元計画の内容（展開）についてお尋ねします。

### ○枠組みについて

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| (24) 「学習段階」は必要ですか       | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (25) 「学習の手順と活動内容」は必要ですか | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (26) 「教師の支援」は必要ですか      | [必要・どちらかという必要・不要] |

### ○学習段階について

- |   |                   |
|---|-------------------|
| (27) 「はじめ」（導入）・「なか」（展開）・「まとめ」（整理）の3段階は必要ですか | [必要・どちらかという必要・不要] |
|---|-------------------|

### ○学習の手順と活動内容について

#### ・はじめの段階について

- |                                    |                   |
|------------------------------------|-------------------|
| (28) 「オリエンテーション」は必要ですか             | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (29) 「単元の目標の理解、学習の手順ついでの見通し」は必要ですか | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (30) 「グループ編成と役割分担」は必要ですか           | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (31) チームや個人の「目標の設定」は必要ですか          | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (32) 「試しのゲーム」は必要ですか                | [必要・どちらかという必要・不要] |

#### ・なかの段階について

- |                               |                   |
|-------------------------------|-------------------|
| (33) 目標を達成するための「課題の把握」は必要ですか  | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (34) 「活動の工夫」は必要ですか            | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (35) 「中間のゲーム」は必要ですか           | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (36) 課題や活動に対しての「成果の確認」は必要ですか  | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (37) 目標を達成するための「課題の再把握」は必要ですか | [必要・どちらかという必要・不要] |
| (38) 「活動の再工夫」は必要ですか           | [必要・どちらかという必要・不要] |

(39) 最後に成果の確認をするための「最終のゲーム」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

・まとめの段階について

(40) 個人やチームでの目標・課題・活動に対しての「成果の再確認」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

○教師の支援について

・はじめの段階について

(41) オリエンテーションの仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(42) 目標の設定の仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

・なかの段階について

(43) 課題の把握の仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(44) 活動の工夫の仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(45) 成果の確認の仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(46) 課題の再把握の仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(47) 活動の再工夫の仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

・まとめの段階について

(48) 成果の再確認の仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(49) 生徒の自己評価の仕方を支援することは必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

○評価について

・生徒の自己評価

(50) 「学習の手順を身につけることができたか（学び方）」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(51) 「練習やゲームの仕方を工夫することができたか（学び方）」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(52) 「互いに協力し楽しく意欲的に学習できたか（関心・意欲・態度）」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(53) 「作戦を生かしたゲームができたか（技能）」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

・教師の評価

(54) 「学習の手順を身につけることができたか（学び方）」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(55) 「練習やゲームの仕方を工夫することができたか（学び方）」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

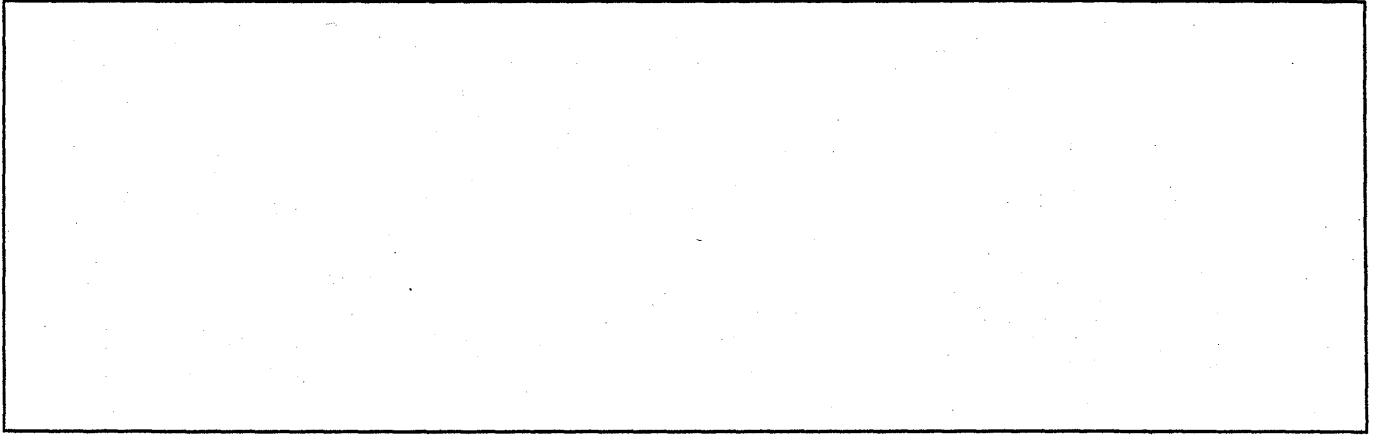
(56) 「互いに協力し楽しく意欲的に学習できたか（関心・意欲・態度）」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

(57) 「作戦を生かしたゲームができたか（技能）」は必要ですか

[必要・どちらかという必要・不要]

○内容（展開）について疑問・ご意見等ありましたらお書きください。



ご協力ありがとうございました。



平成 14 年度修士論文

「中学校体育授業におけるバレーボールの単元計画の検討

—運動の学び方の育成に着目して—」 の修正について

この度は、誠に丁寧な審査をしていただきありがとうございました。2 時間にわたる審査会において、ご指摘をいただいた通り、下記のように修正いたしました。

1. 運動の学び方の捉え方について

ご指摘いただいた箇所をよりわかりやすくするために、文献から引用し、具体的にわかりやすく修正、補加筆いたしました。

2 年代別の考察について

西暦に修正しました。

3. アンケート調査における単元計画の妥当性について

妥当性ではなく、単元計画の形式及び内容の必要性及び適切性としました。

4. 単元計画について、男女共習に変更した点について

男女共習に変更した理由を修正し、補加筆させていただきました。

今回は、多くのご指摘をいただき、大変参考になり感謝しております。今後の研究にも是非生かしていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

なお、私の最終発表会は 2 月 27 日（木）となっておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

平成 15 年 2 月 15 日

体育科教育学研究室 荻原 朋子